

第七十九回 帝國議會衆議院 日本勸業銀行法中改正法律案外五件委員會議錄(速記)第四回

理事小笠原八十美君	岡本實太郎君	岡本深澤	吉平君	理事石坂
土田 莊助君	藤本 捨助君	三木 武夫君	片山 哲君	篠原 陸朗君
川俣 清音君	西尾 末廣君	大藏大臣 賀屋 興宣君	中野 治介君	豊一君
出席國務大臣左ノ如シ	出席政府委員左ノ如シ	大藏省主税局長 松隈 秀雄君	宮本雄一郎君	理事駒井 重次君
大藏省會社部長 田中 豐君	大藏書記官 中村 建城君	北 隆吉君	松田 正一君	
國民貯蓄獎勵局次長 氏家 武君	營繕管財局理事 梅北 末初君	瀧澤 七郎君		
日本勸業銀行法中改正法律案左ノ如シ	本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ			
貴族院送付)				

農工銀行法中改正法律案（政府提出、貴族院送付）
北海道拓殖銀行法中改正法律案（政府提出、貴族院送付）
國民貯蓄組合法中改正法律案（政府提出、貴族院送付）
稅務代理士法案（政府提出、貴族院送付）
社債等登錄法案（政府提出、貴族院送付）
會計法戰時特例案（政府提出、貴族院送付）
○由谷委員長 是ヨリ會議ヲ開キマス——
○中野治介君
主トシテ事務上ニ關スル事柄デゴザイマシ
テ、五點アリマス、其ノ第一ハ、各府縣ハ
ソレド^ム、經濟ヲ異ニシテ居リマス爲ニ預金
ナリ、債券ノ賣出額等其ノ數額ニ於テ差ノ
アルコトハ當然デアリマスガ、サウシタ預
金ナリ、債券賣出ニ依ツテ得マス收入額ニ
比例致シマシテ、貸出ノ額ト云フモノハ割
合ヲ決メテ居ラレルト云フヤウナ實情デア
リマスカ、サウ云フコトハナクシテ、仕事
本來ノ性質ニ基イテ貸出ニナルト云フヤウ
ナ次第デアリマスカ、ト云フ點ガ第一點デ
アリマス

第二點ハ、日本勸業銀行法第十五條ニ
貸出ヲ受クル資格者ニ付テ規定シテアリマ
ス、産業組合以下茲ニ掲ゲテアリマスモノ
ノ中デ、漁業組合ト云フコトガ規定サレテ
居ルノデアリマスガ、此ノ貸出ヲ受クル法
定團體ニ對シマシテハ、其ノ團體ノ性質ニ
依リマシテ、貸出ノ額ノ割合ト云フモノガ
銀行ニ於テ豫定サレテ居ルヤウナコトガア
ルノデアリマスカ、若シソレガアルト致シ
マスナラバ、其ノ割合ハドウ云フ風ニナツ
テ居リマスカ、御指示ガ願ヒタイノデアリ
マス、ソレカラ漁業組合ニ貸出ヲスルコト
ニナツテ居リマスガ、此ノ漁業組合ガ昨今
總體デ幾何借リテ居リマスカ、其ノ概數ガ
分リマスレバ御指示ガ願ヒタイノデアリマ
ス
尙ホ二點ノ中デ三十二條ノ中ニ「五人以上
ノ農業者、林業者、工業者又ハ漁業者申合
セ」云々トアリマシテ、無擔保デ以テ漁業者
モ借リ得ルコトニナツテ居ルノデアリマス
ガ、此ノ條ニ依リマシテ無擔保デ以テ漁業
者ガ借リテ居ル總額ハ現在凡ソ幾何デアリ
マスカ、概數ヲ示シテ戴キタインデアリマ
ス、此ノ間ヲ發スル所以ハ、漁業者ハ一般
社會ニ關心ヲ以テ迎ヘラルコトガ他ノ業

者に比較致シマシテ沿ニ薄イト云ニト
痛感スル次第デアリマスガ、食糧問題ノヤ
カマシクナリマシタ今日ト致シマシテハ、
斯様ニ今マデ無關心デアリマシタウナコ
トハ、許サレヌト云フコトニナツデ居ル狀
態デアリマスカラ、努メテ漁業者ヲ助ケ、
大イニ漁業ノ實ヲ學グルコトニ努メナケレ
バナラナイ現狀デアリマスカラ、サウ云フ
ヤウナコトヲ加味致シマシテ此ノ問ヲ發ス
ル次第デアリマス

第三點ハ、民法ニ依リマスト擔保ヲ毀滅
減少致シマシタ時ニハ、其ノ擔保ヲ毀滅減
少致シマシタ爲ニ辨償ヲ受クルコトノ出來
ナイコトニ立至リマシタル場合ニハ、其ノ
辨償ヲ受クルコトノ出來ナイ範圍内ニ於テ
ハ、保證人ニ對シマシテハ求償ガ出來ナイ
ト云フコトニナツデ居ルノデアリマスガ、
今日マデノ實例ニ依リマスト、勸業銀行ノ
貸出ハ、仕事ノ取扱振リト致シマシテハ、
擔保ヲ毀滅減少致シマシテモ、斯ウシタ保
證人ニ對シマシテハ免責ヲ許サナイ、サウ
シタ場合デモ保證人ハ當リ前ノ保證ノ義務
道義ノ觀念ノ上カラ申シマシテモ、貸主ハ

付託議案
日本勸業銀行法中改正法律案（政
農工銀行組合中改正法律案（政府提
出貴族院送付）（第六二號）
北海道拓殖銀行法中改正法律案
（政府提出貴族院送付）（第六四號）
國民貯蓄組合法中改正法律案（政
府提出貴族院送付）（第六五號）
稅務代理上法案（政府提出、貴族院
送付）等（第六六號）
送付（第六七號）
院會計法（第七號）
院送付（第七九號）
（第七時例案（政府提出、貴族

自己自ラガ自己ノ權益ヲ擁護シナケレバナ
ラヌ立場ニ居ルノデアリマスガ、ソレガ其
ノ過失行爲ニ依リマシテ擔保ヲ毀滅減少ヲ
致シマシテモ保證人ニ之ヲ追求シテ取り得
ルト云フコトニ致シマスコトヘ、如何ニモ
人道ノ上カラ申シマシテモ、正義ノ上カラ
申シマシテモ、許スベカラザル事柄デハア
ルマイカト思フノデアリマス、所デ實際ノ
實例ヘ、堂々タル勸業銀行ノ貸出ニ於キマ
シテ、保證義務ヘヤハリ斯ウ云フ場合ニ於
キマシテモ保證人ニ追求シ得ルコトニナツテ
居ルノデアリマスガ、是等ハ如何ニモ貸出ノ
指導ノ立場ニ居ル團體ト致シマシテハ餘り
男性ラシクナイト考ヘルノデアリマスガ、
其ノ點ニ付キマシテ當局ノ御所見ガ伺ヒタ
イノデアリマス

第四點ハ近時資金ノ融通ト云フコトニ付

キマシテハ、飽マデ合法的ナ事柄デアリマ

スナラバ便利ヲ與ヘルト云フコトガ至當デ

アラウト思フノデアリマス、債權債務ノ肩

替リデアリマスガ、債權及ビ擔保ヲ共ニ勸

銀ガ讓受ヲ致シマシテ融通ヲスル、斯ウ云

フコトハ登録税ノ二重負擔ヲ免レ、其ノ他

時間ノ節約等ノ上カラ申シマシテ、餘程便宜

デアルノデアリマスカラ、努メテサウ云フ

場合ニ遭遇致シマシタ時ニハ債權及ビ擔保

共ニ讓受ケテ、サウシテ融通ヲスルト云フ

コトガ洵ニ便利デアルノデアリマシテ、サ

ウ云フ事柄ハ、多少是マデノ經驗上勸業銀

行デ取扱ツテ居ラレルコトヲ實見シテ居ル

ノデアリマスガ、是ハ原則トシテ御許シニ

ナツテ居ルノデアリマスカ、例外トシテサ

ウシタ場合ニ特ニ許スト云フ次第デアリマ

スカ、其ノ點ニ付テ御所見ヲ承リタインオデ

アリマス

終リニ第五點ト致シマシテ、擔保價格デ
アリマスガ、從來ノ經濟ノ情勢ト致シマス
ノラバ漸次價格ノ騰貴ヲ見ル、斯ウ云フ次
ニ集ツテ、大キナ計畫ノ一ツノ實行トシテ、
ルト云フコトニ致シマスコトヘ、如何ニモ
人道ノ上カラ申シマシテモ、正義ノ上カラ
申シマシテモ、許スベカラザル事柄デハア
ルマイカト思フノデアリマス、所デ實際ノ
實例ヘ、堂々タル勸業銀行ノ貸出ニ於キマ
シテ、保證義務ヘヤハリ斯ウ云フ場合ニ於
キマシテモ保證人ニ追求シ得ルコトニナツテ
居ルノデアリマスガ、是等ハ如何ニモ貸出ノ
指導ノ立場ニ居ル團體ト致シマシテハ餘り
男性ラシクナイト考ヘルノデアリマスガ、
其ノ點ニ付キマシテ當局ノ御所見ガ伺ヒタ
イノデアリマス

第四點ハ近時資金ノ融通ト云フコトニ付

キマシテハ、飽マデ合法的ナ事柄デアリマ

スナラバ便利ヲ與ヘルト云フコトガ至當デ

アラウト思フノデアリマス、債權債務ノ肩

替リデアリマスガ、債權及ビ擔保ヲ共ニ勸

銀ガ讓受ヲ致シマシテ融通ヲスル、斯ウ云

フコトハ登録税ノ二重負擔ヲ免レ、其ノ他

時間ノ節約等ノ上カラ申シマシテ、餘程便宜

デアルノデアリマスカラ、努メテサウ云フ

場合ニ遭遇致シマシタ時ニハ債權及ビ擔保

共ニ讓受ケテ、サウシテ融通ヲスルト云フ

コトガ洵ニ便利デアルノデアリマシテ、サ

ウ云フ事柄ハ、多少是マデノ經驗上勸業銀

行デ取扱ツテ居ラレルコトヲ實見シテ居ル

ノデアリマスガ、是ハ原則トシテ御許シニ

ナツテ居ルノデアリマスカ、例外トシテサ

ウシタ場合ニ特ニ許スト云フ次第デアリマ

スカ、其ノ點ニ付テ御所見ヲ承リタインオデ

アリマス

定ヲスルコトガ出來ルノデアリマスガ、近
シテハ其ノ將來ヲ考慮ニ入レテ價格ノ決
定ノラバ漸次價格ノ騰貴ヲ見ル、斯ウ云フ次
ニ集ツテ、大キナ計畫ノ一ツノ實行トシテ、
ルト云フコトニ致シマスコトヘ、如何ニモ
人道ノ上カラ申シマシテモ、正義ノ上カラ
申シマシテモ、許スベカラザル事柄デハア
ルマイカト思フノデアリマス、所デ實際ノ
實例ヘ、堂々タル勸業銀行ノ貸出ニ於キマ
シテ、保證義務ヘヤハリ斯ウ云フ場合ニ於
キマシテモ保證人ニ追求シ得ルコトニナツテ
居ルノデアリマスガ、是等ハ如何ニモ貸出ノ
指導ノ立場ニ居ル團體ト致シマシテハ餘り
男性ラシクナイト考ヘルノデアリマスガ、
其ノ點ニ付キマシテ當局ノ御所見ガ伺ヒタ
イノデアリマス

○櫛田政府委員 只今ノ御尋ネノ第一點

ハ、地方ニ於キマス預金トカ或ハ債券ノ

購入ト云フヤウナ地方ニ於ケル資金ノ蓄積

ト、地方ニ於ケル貸出トガドンナ工合ニナ

シテ上ゲテ宜シカト存ズルノデアリマス

次ハ勸業銀行法ノ第十五條ノ第三項ニ付

テデゴザイマシテ、產業組合トカ工業組合、

漁業組合等色々ノ組合ガアル譯デアリマス

ガ、其ノ組合每ニドノ位貸セルト云フ風ナ

貸出ノ豫定ノ金額ガアルデアラウカト云フ

御尋ネデゴザイマンタガ、是モ抽象的ニ大

體下ノ位貸サウト云フ風ナ限度ヲ設定シテ

居ルト云フ風ナ實情デハゴザイマセヌ、產

業組合ナリ、漁業組合ナリ、工業組合ナリ

ガ、ドレダケノ金額ヲドウ云フ方面ニドウ

シテ居ル所デゴザイマス

者ノ過失故意等ニ依ラズシテ是ガ滅失毀傷

シタ場合ニ於ケル保證人ニ對シテ追及スル

權ガ現在キツ過ギルノデハナイカト云フ御

話デゴザイマスガ、私實情ヲ能ク存ジマセヌ

ガ、時々サウ云フ御話モ聽カナイ譯デハゴ

ザイマセヌノデ、大體銀行トシテハ實情ニ

情ハゴザイマセヌ、ソレカラ漁業組合ニ對

シテドノ程度現在貸シテ居ルカト云フコト

アリマスガ、最近ニ於キマシテモ、是ヘ例

ツク資金モ、其ノ地方ニ於テ重點的ニ使ハ
レル方面ニ放出スル以外ハ、大體是ガ中央
ニ集ツテ、大キナ計畫ノ一ツノ實行トシテ、
ルト云フコトニ致シマスコトヘ、如何ニモ
人道ノ上カラ申シマシテモ、正義ノ上カラ
申シマシテモ、許スベカラザル事柄デハア
ルマイカト思フノデアリマス、所デ實際ノ
實例ヘ、堂々タル勸業銀行ノ貸出ニ於キマ
シテ、保證義務ヘヤハリ斯ウ云フ場合ニ於
キマシテモ保證人ニ追求シ得ルコトニナツテ
居ルノデアリマスガ、是等ハ如何ニモ貸出ノ
指導ノ立場ニ居ル團體ト致シマシテハ餘り
男性ラシクナイト考ヘルノデアリマスガ、
其ノ點ニ付キマシテ當局ノ御所見ガ伺ヒタ
イノデアリマス

期ニ對シマシテハ價格決定ノ上ニ於テ將來其

ノ騰貴スルコトヲ見込ンデ居ラレマスカ、

ヤハリ現狀ニ鑑ミラレマシテ、サウ云フ價

格ノ騰貴ト云フコトヲ見込マナイデ、今日

ハ今日ノ現狀ヲ御決定ニナルト云フ御方針

デアリマスカ、其ノ點ニ付テノ御所見ヲ伺

ヒタノデアリマス、以上五點ニ付テ御伺ヒ

致シマス

○櫛田政府委員 只今ノ御尋ネノ第一點

ハ、地方ニ於キマス預金トカ或ハ債券ノ

購入ト云フヤウナ地方ニ於ケル資金ノ蓄積

ト、地方ニ於ケル貸出トガドンナ工合ニナ

シテ上ゲテ宜シカト存ズルノデアリマス

次ハ勸業銀行法ノ第十五條ノ第三項ニ付

テデゴザイマシテ、產業組合トカ工業組合、

漁業組合等色々ノ組合ガアル譯デアリマス

ガ、其ノ組合每ニドノ位貸セルト云フ風ナ

貸出ノ豫定ノ金額ガアルデアラウカト云フ

御尋ネデゴザイマンタガ、是モ抽象的ニ大

體下ノ位貸サウト云フ風ナ限度ヲ設定シテ

居ルト云フ風ナ實情デハゴザイマセヌ、產

業組合ナリ、漁業組合ナリ、工業組合ナリ

ガ、ドレダケノ金額ヲドウ云フ方面ニドウ

シテ居ル所デゴザイマス

者ノ過失故意等ニ依ラズシテ是ガ滅失毀傷

シタ場合ニ於ケル保證人ニ對シテ追及スル

權ガ現在キツ過ギルノデハナイカト云フ御

話デゴザイマスガ、私實情ヲ能ク存ジマセヌ

ガ、時々サウ云フ御話モ聽カナイ譯デハゴ

ザイマセヌノデ、大體銀行トシテハ實情ニ

情ハゴザイマセヌ、ソレカラ漁業組合ニ對

シテドノ程度現在貸シテ居ルカト云フコト

アリマスガ、最近ニ於キマシテモ、是ヘ例

デゴザイマスガ、昭和十六年ノ上期末ニ於

ケル漁業組合ニ對スル無抵當ノ貸付殘高ヘ、

大體七百万圓餘ニナツテ居リマス、尙ホ漁

業ニ振向ケマストカ、或ハ他ノ地方ノ重要ナ產

業ニ振向ケマストカ、サウ云ツタヤウナコ

トガ行ハレルノデアリマスガ、是ガ段々ト

振向ケマストカ、或ハ他ノ地方ノ重要ナ產

業ニ振向ケマストカ、サウ云ツタヤウ

ガ一寸違フカトモ思ヒマスガ、例ヘバ應召セラレタ方トカ徵用セラレタ方、サウ云フ方ニ對シテハ、從來ノ金融業的ナ見方カラ申スト非常ニ寛大ナト申スト語弊ガアリマスガ、極メテ公平ニト申シマスカ、社會正義申シマスカ、緩ヤカニ御便宜ヲ計ラツテ居ルト云フヤウナコトヲ致シテ居ル譯デアリマシテ、段々ト銀行ノ方ノ考ヘ方モ日ニ日ニ變ツテ參ツテ居ル譯デアリマスガ、今後共十分ニ氣ヲ付ケマシテ、仰シャイマスヤウナ點ガ、擔保追及其ノ他ニ付テ條理ヲ外レテ強行スルト云フヤウナコトノナイヤウニ段段ト仕向ケテ行キタイト存ジシテ居リマスソレカラ第四點ハ、債權ノ肩替等ニ付テハ擔保モ讓受ケテ併セテヤツタ方ガ宜イデハナイカ、ソレガ原則ニナツテ居ルカ、例外ニナツテ居ルカト云フ御尋ネデアツタヤウニ存ジマスガ、是ハ別ニ取扱上之ヲ原則トスルト云フヤウナコトハ致シテ居リマセスガ、不動産融資ノ場合ニ於キマシテハ、此ノ事ヲ現實ニヤツテ居ルノデアリマシテ、他ノ場合ニ於テモ便宜上ヤツテ居ル場合ガアリマスガ、唯原則トシテハ居ラナイノデアリマシテ、別ニ例外措置ト云フノデハゴザイマセヌデ、其ノ時々ノ實情ニ應ジテ適宜取計ラツテ居ルト云フ現状デゴザイマスソレカラ擔保價額ニ付テ將來ノ值上リト云フヤウナモノヲ考慮ニ入レテ決定シテ居ルノデアルカドウカト云フ御話デアリマスガ、大體擔保價額ハ簡單ニ申セバ、皆サン能ク御承知ノコトト思ヒマスガ、現在竝ニ將來ニ互ツテ其ノ擔保カラ生ズル收益性ト處分スル時ニハドウ云フ風ナ時價ヲ持ツテ居ルカ、サウ云ツタ時價トカ現在竝ニ將來ニ

瓦ル收益トカ色々ナ點ヲ考ヘマシテ、専門家ガ之ヲ鑑定致シテ居ル譯デゴザイマス、隨ヒマシテ將來ノ考慮ト云フコトモ當然其ノ要素トシテ入ツテ居ルコトハ勿論ダト存ジマスガ、最近ノヤウニ物價ノ統制ナリ殊ニ又不動產ノ價格等ニ付キマシテモ、段ト統制サレテ參リマス時代ニ於キマシテハ、或ル程度將來ニ於ケル價格ノ下落ナリ或ハ價格ノ騰貴ナリト云フモノノ考ヘマスル要素ガ、段々ト少クナツテ來ルノデハナイカト云フコトハ自然ノ傾向トシテ考ヘラレ譯デアリマスガ、唯將來ノ考慮ト云フコトハ擔保價格ノ鑑定ニ當リマシテハ、一段ノ要素トシテ加ハツテ居ルト云フコトダケハ申上ガラレルト思ヒマス、不十分デアリマスガ、大體以上御答ヘ申上ガマス○中野(治)委員 私ハモウ宜シウゴザイマスガ、大體以上御答ヘ申上ガマス○由谷委員長 ソレデハ午前中ノ會議ハ是デ休憩致シマス、午後一時カラ再開致シマス

午前十時四十一分休憩

午後一時四十五分開議

○由谷委員長 是ヨリ午前ニ引續イテ會議ヲ開キマス、大藏大臣御出席ニナリマシタガ、色々詰マツタ用事モアルサウデスカラ、大藏大臣ニ残シタ質問ハ出來ルダケ簡潔ニ要領好ク御願ヒシマシテ、時間ノ整理ヲスルヤウニ心構ヘヲ御願ヒシテ置キマス

○岡本委員 折角大臣御臨席デスカラ一
點御尋ネ致シマス、稅務代理士法案ニ付テデ
アリマスルガ、此ノ法案ヲ見マスルト、辯護士ヤ或ハ辦理士等ノ如ク登録制度ニアラ
ズシテ、許可制度ニナツテ居ルノデアリマ
ス——岡本實太郎君

ス——岡本實太郎君

アリマスルガ、此ノ法案ヲ見マスルト、辯護士ヤ或ハ辦理士等ノ如ク登録制度ニアラ
ズシテ、許可制度ニナツテ居ルノデアリマ
ス、而シテ其ノ許可スペキモノトシテ法案
ノ第一條ニ第一號、第二號、第三號、第四
號、是ダケ列舉シテアリマス、是ハ許可ス
ベキ資格者ナノデアリマス、其ノ第一號ニ
ハ「辯護士」ト掲ゲテアリマス、一方辯護士法
ヲ見マスルト、現行ノデハ辯護士ハ一般法
律事務ヲ行フヲ以テ職務ト致シテ居リマス、
訴訟事件、非訴訟事件、或ハ官廳ノ選任ニ
依ツテ辯護モ致シマス、所謂官選辯護デア
リマス、斯ウ云フコト以外ニ一般法律事
務ヲ取扱フヲ職務トスル、斯ウアリマスカ
ラ、從來稅務ニ付テモ法律事項トシテ之ヲ
辯護士ハ取扱ツテ居ツタノデアリマス、殊
ニ辯護士ガ取扱フ時ニハ、稅法ニハ比較的
知識ガ薄イト云フ關係カ、審査請求或ハ
訴願等ヲスル時ニ於キマシテモ、多クハ
實體法ニ基イテ居ル民法ト商法トカ乃
至ハ訴訟法トカ——訴訟法ハ實體法デハ
アリマセヌガ、——民法、商法、殊ニ會
社ニ關スルコトガ最モ複雜ズ、稅法デモ
審査請求や訴願等ガ多イノデアリマス、
ソレニ基イテ辯護士ハヤツテ居リマス、
是等ニ付テハ辯護士ハ必ズ專門知識ヲ持ツ
テ居ル、之ニ次ギマシテ第二號ニ「計理士」
トアリマスガ、計理士ガ扱フノハ多クハ計
算事務デアリマセウ、考課狀ノ作成、是等
ニ付テ特別ノ知識ヲ持ツテ居ルカラ資格ガ
アルノデアリマセウ、ソコデ今回ノ法案ヲ
見マスト、許可制ニナツテ居ル、辯護士ガ
出願シタ時ニ、其ノ許否ハ大藏省ノ御自由
デアル、先日來政府委員ト質問應答ヲ重ね
マスルト、餘リニ數ヲ多クスルト云フト、
品位モ下リ、地位モ落チルカラ、其ノ數ヲ
成ベク制限スル、數ノ少イ方ガ宜シ、斯
ウ云フ御答辯ニ承ツタノデアリマス、サウ

スルト辯護士ガ出願シタ時ニハ、從來扱ツ
テ居ツタ者ハ扱ヘマセウガ、然ラザル者デ
アレバ、實體法ニ基イテ折角ヤラウトシテ
モ、其ノ許可ガ受ケラレヌ、訴願モ出來ナ
イ、審査請求モ出來ナイト云フコトニナ
ル——尤モ行政訴訟法ハ除イテアリマスカラ、
是ハ別デアリマス、自由ニ出來ル——謂ハ
バ既得權ヲ奪ハレル、既ニ今マデヤツテ居
ツタモノガ出來ナイト云フコトニ制限サレ
ル、斯ウ云フコトニナルノデアリマス、現
在稅務代理士ヲヤツテ居ル者ハ別ニ資
格ノ要求ハナイシ、又非辯護士ノ取締
法ニモ訴訟事件、非訟事件デナイカラ
直接入ツテ居ラヌ、斯ウ云フヤウニ扱ツ
テ居リマス、ソレデ現在扱ツテ居ル者
ハ多クハ御許シニナル、既ニ扱ツテ居ル
者ノ業務マデ奪ツテシマツテハ残酷デアル
カラ、所得既得權ヲ認メテ、出願スレバ多
クハ許ス方針デアル、併シ札グケ掛ケテ事
實ヤツテ居ラヌト云フヤウナ者ハ御許シニ
ナラス、是ハ當然デアリマス、斯ウ云フヤ
ウニナリマスト、現在ヤツテ居ル者ハ既得
權ヲ保護シテ殆ド許ス、辯護士ノ方ニハ成
ベク數ヲ制限スル爲ニ其ノ許可ハ甚ダ制限
サレルト云フコトニナルト、非常ニ不公平
ニナツテ、辯護士ハ既得權ヲ奪ハレル、斯
ウ云フ點カラ容易ナラス問題ガ起ルノデア
リマス、ソコデ大藏大臣ニ御尋ネスルノハ、
既ニ辯護士ヲ職務トシテ行ヒ業トシテ居ル、
是ハ今マデヤツテ居ツタ者デアリマス、詰
リスウ云フ者が出願スレバ成ベク御許シニ
ナル、絕對トハ言ヘマスマイ、多數辯護士
ノ中ニハ適任ノ者モ居リマセウシ、不適任
ノ者モ居リマセウカラ、絕對トハ言ヘマス
マイガ、成ベク御許シニナル方針デアル、

斯ウ云フコトヲ承レバソレデ又了解モ致シ
マス、併シ成ベク御許シニナルト云フ方針
ヲ御執リニナツテモ、ソンナニ澤山ハ願フ
マイトイフ、ナゼナラバ各、其ノ管轄ガアリ
マシテ税務代理士會ヲ作ルコトニナツテ居
ル、ソレニハ毎月會費モ要リマス、相當ナ
費用モ出サナケレバナラヌ、ダガラ願フ者
ハ其ノ費用ヲ厭ハズ出サネバナラヌノデス
カラ、全ク仕事ヲシナイ者ハ願出ルヤウナ
コトハアルマイトイフ、斯ウ云フヤウナ關係
ニモアリマスカラ、出願シタ者ハ成ベク
御許シニナルヤウニシテ戴キタイト思フノ
デアリマスガ、ドウ云フ御扱ヒニナルカ、
其ノ御心組ミヲ承ハツテ置キタイト思フノ
デアリマス

レマスヤウナ人ニハ適格者ハ相當多いノデ
アリマス、特ニ之ヲ制限スルコトナシニ、
成ベクナラバ出願ガアリマスレバ認メルト
云フ方針デ参リタイト思ヒマス
○岡本委員 其ノ御答辯ヲ承ハリマシテ分
リマシタ、恐ラク出願スル者ハ會社ノ取締
役ノ經驗ガアルトカ、或ハ監査役ヲシテ居
ルト云フ者デアリマセウ、又實際ヲ見マシ
テモ所謂會社ノ顧問トシテ各社ノ法律事務
ノ相談ニ與ツテ居ル者ハ多クハ監査役ヲヤ
ツテ居ルヤウデアリマス、舊商法デハ人力
ヲ名前ヲ借りタ株主ニナツテ居リマス、新
商法デハ株主デナクテモ出來マスケレドモ、
顧問ト俗ニ言ウテモ實ハ監査役ヲヤツテ居
リマス、考課狀ナドモ始終見ルコトガアル
シ、斯ウ云フ經驗ハ多ク持ツテ居ル者デス
カラ大抵願フコトニナルダラウト思フ、所
謂「バランスシート」ヲ見ルダケノ知識ヲ持
ツテ居ル者ハ稅法關係デモ能ク分ル、斯ウ
云フコトガ言ヘル、又稅法モ數年前マデハ
實ニ複雜多端デドウナツテ居ルカ分ラヌヤ
ウナ混亂シタモノニアツタガ、一昨年根本
的ノ整理ガ出來マシテ、今デハ其ノ法規ノ
複雜ナル關係ハ取レテ、辯護士ナラバ法規
ヲ見レバ一見分ルノデアリマス、ソレニ三
ツモ四ツモ重ナルト云フヤウナコトハアリ
マセヌカラ餘程解釋ノ出來ルコトカト思ヒ
マス、斯ウ云フ關係ニアリマスカラ、狙ヒ
ハ成ベク御許シニナルト云フコトヲ御願ヒ
致シマス、私ノ大臣ニ對スル質問ハソレダ
ケデアリマズ

デ事務ヲ扱フノハ宜シイ、斯ウ云フ規定ニ所デモ三箇所デモ幾ラデモ宜シイ、サウスルト出張所ヲ置クヤウニナツテ先生ハ月ニ一度カ二度位シカ行カナイデ、事務所ハ代理ノ者ガ扱フ、詰リ俗ニ言フ潜リ、非辯護士ニ任せテ置クト云フ弊害ガアリマス、ソコデ非辯護士ヲ取締ルト同時ニ事務所ハ一箇所トス、斯ウ云フ事柄ニ當時改正サレタノデアリマス、又事實信用ニ依ツテ参りマスカラ、先生デナケレバナラヌト云フノガ多イノデアリマス、吾々ガ丁度醫者ニカカル時ニ兎ニ角院長サンニ手ヲ握ツテ貴ヒタノト同ジデアリマス、所ガ事務所ラーツモ三ツモ置クト先生ハ一箇所ニハ居ラヌデ、替ルニニ事務所ニ行クヤウニナルノデ、ドウシテモ非辯護士ニ代理ヲサセル、其ノ弊害ニ堪ヘナイト云フヤウナ關係カラ税務代理士ニ於キマシテモ須ク斯ウ云フ方針ニアレタガ宜イト思ヒマス、此ノ案ヲ見マスト命令ノ定ムル所ニ依リ事務所ヲ設立スベシトアリマスカラ、恐ラク勅令カ省令カデ一箇所カ數箇所ト云フコトヲ御定メニナルト思フ、其ノ命令ヲ御決定ニナル時ニハ是ハ一箇所ト云フヤウニ數ヲ制限サレヌトキツト將來弊害ガアリマス、勿論命令ナラバ其ノ時變ヘルコトモ容易デアルカモ知レナイガ、此ノ税務代理士法が出テ、變ナ者ガ餘り跋扈シナイヤウニ當初カラ御懸念下サツテ、此ノ命令ヲ御制定アランコトヲ望シシテ置キマス

ニ御伺ヒヲ致シマス、金融部門ニ付テノ統制デアリマスガ、物ニ對スル統制ハ或ル程度マデ強化サレテ居リマスケレドモ、金融總動員法ニ基クニ二勅令案が出マシテ、大部統制ヲ強化サレルヤウニナツテ參ツタノデアリマス所デ此ノ委員會ニ懸ツテ居リマス農工銀行、勸業銀行、拓殖銀行是ハ地方デヤルト云フヤウナ營業ノ相違ハアルカモ知レマセヌガ、大體一ツノモノデアル、内容ハ別ニ變リハナイノデアリマス、ソレヲ名前ヲ變ヘテ、法律ヲ別ニシテ、三ツ斯ウ云フ風ニ銀行ヲ置カナケレバナラスト云フノハ、現下ノ時局ニ鑑ミマシテ、ドウ云フ理由ガアルノカト云フコトガ一ツデアリマス、ソレカラ主トシテ不動産ヲ擔保ト致シテ營業ヲ致シマスル此ノ勸業、農工、拓殖ノ各銀行ハ長イ間色々々ナ非難ガアツクノデアリマス、又事實大體ハ純朴ナル農民ヲ相手ニシテ金融ヲ致シテ居ツタ是等ノ銀行ハドウモ官僚式ナ取扱ヲナシテ、一タビ農民ガ其ノ銀行ノ金ヲ借りレバ、一生銀行ノ爲ニ苦シテ金融ヲ致シテ居ツタ是等ノ銀行ハドウモアリマス、ソレハ是マデモ或ル機會ニ御話シタコトモアツクタ思ヒマスルガ、春蘭ヲ取ツテソレヲ賣ツテ出來タ金ハ、勸業銀行、農工銀行ニ皆取ラレテシマフ、秋米ヲ穫ツテ漸ク金ニスル、サウスルトソレヲ又十二月ノ年賦金ニ勸業銀行、農工銀行、拓殖銀行ガ持ツテ行ツテシマフ、是デドウシテ農民ガ食ツテ行ケマスカ、殆ド斯ウ云フ

現ニ大正十一年デアリマスカ、勸業銀行ノ
ル支店ノ庭先デ農民ガ首ヲ吊ツテ死ンダコ
トガアリマス、其ノ遺言ニ、勸業銀行ハ農
民ヲ苦シメルモノデアル、孫子ノ末マデ勸業
銀行カラ金ヲ借リルナト云フコトヲ書イテ
居ツタト云フ事實ガアル、併シ是ハ今日デ
ハ餘程緩和サレマシテ、農民ノ方ガ非常ニ
便利ヲ與ヘラレテ來テ、今日デハソンナ問
題ハアリマセヌガ、今アノ銀行ノヤリ方ヲ
見マシテモ、ヤハリ幾ラカ農民ニ對シテ貸
付ノ金ヲ抑ヘル度ガ過ギテ、サウシテ産業
部門ニ廻スト云フ風ナコトガアルラシイ、
一昨日カラ當委員會デソレガ問題ニナツテ
居ルノデアリマスガ、此ノ委員會ニ付託サ
レテ居リマス案策ヲ見マスルト、勸業銀行
ハ手形モ扱フコトガ出來ル、株ノ取扱モ出
來ルト云フコトニナツテ居ル、今デハ興業
銀行ト勸業銀行トノ差ハ極メテ僅カニナツ
テ來テ居ルノデスガ、其ノ上又勸業銀行ニ
斯ウ云フモノヲ許シテ行クト云フコトニナ
ルト、是ハ普通銀行トモ餘リ變ラヌコトニ
ナル、サウ致シマスト、斯ウ云フ銀行ヲ幾
ツモ置イテオク必要ハナイノヂヤナイカ、
寧ロ大合同ヲ行ツテ一つノ銀行ニシテシマ
ツテ、今回日本銀行ガ政府ノ銀行ノ如クナ
ト同時ニ普通銀行ノ合併ガソレゝ進ンデ
行ツテ、前ニハ色々非難ガアリ、合併サス
爲ニキツイ検査ヲ行フテ、合併シナケレバ
検査デイチマルト云フコトデ威カシ廻ツテ
合併ヲ強ヒタヤウナコトモ過去ニハアツタ
ガ、今日ハ恐ラクサウ云フコトハナイ、互
ニ諒解ラシ合ウテ合併ガ進ミ、其ノ數モ段

段普通銀行アタリモ少クナツテ居ル、元々
検査デ威カシテ合併ヲ強ヒタヤウナ時ニハ
例ヘバ合併スルマデニ年々百万圓ノ預金ヲ
互ニ殖ヤシテ居ツタ、詰リ二ツノ銀行デ二
百万圓ノ資金ノ取扱ガ殖エ居ツタノガ、
合併後モ二百万圓ノ預金ノ扱ヒガ殖エテ行
クカト云フト、サウハ行カヌ、別々ニヤツ
テ行ケバ二百万圓ノ預金ノ取扱ガ殖エタケ
レドモ、一緒ニナツタガ爲ニ百五十万圓位ノ
扱ヒガ殖エルダケデ、合併ノ結果却ツテ成
績ガ悪クナツタ、所ガ今日ハモウサウ云フ
コトガナク合併ハ事實上行ハレテ、業者ガ
互ニ進ンデ合併ヲシタイト云フヤウナ氣風
ニナツテ居リマス、普通銀行ノミナラズ其
ノ他ノ金融機關ト雖モ今デハ却ツテ業者ノ
方カラ合併ヲ希望致シテ居ルヤウナ譯デア
ル、斯ウ致シマスト日本銀行ヲ初メ或ハ今
ノ特殊銀行、普通銀行ト云フヤウナモノヲ
一纏メニシテ、昨日モ次官カラ御話ガアリ
マシタガ、一元化スルト云フコトヲ言ハレ
テ居リマスカラ、保険會社ナリ庶民金融ノ
機關ナリ質屋ニ至ルマデ、上ハ日本銀行ヨ
リ下ハ質屋ニ至ルマデ金融機關ト云フモノ
ヲ一元化致シテ、金融省ト云フヤウナモノデ
モ作ツテ、其ノ金融省ノ下ニ種類別ハマダア
ツテモ宜イガ、サウ云フヤウナ機構ニナサ
ツテ、此ノ戰時下ノ金融機構ヲ改メルト云
フコトニナサツテハドウデアルカ、サウス
レバ總テノ信用保證ト云フモノハ國ズル
譯ニナリマスカラ、國民モ安ンジテ取引ヲ
ナスコトガ出來ル、又遊金ガ出來マシタ場
合ニ、其ノ資金ノ運用ハ重點主義ニ行ツテ、
政府ガ之ヲ自由ニスルコトガ出來ル、斯ウ
云フコトニナリハセヌカ、ソレヲ一ツ斷行
シテハドウデアラウカ、斯ウ云フ風ニ考へ

賀屋國務大臣

○賀屋國務大臣 御尋ネハ中々多岐ニ亘ツ
テ居リマス、物事ノ真相ヲ明カニシマス上ニ、
御尋ネノ主眼デハアリマセヌガ、日本デハ
金融統制ガ遅レテ居ルト云フ聲ガアル、之
ニハ私ハ相當了解ノ届カナイ點ガアルト思
ヒマス、日本デ一番先ニ出來マシタノハ金
融統制デアリマス、是ハ何カト申シマス
ト、臨時資金調整法ト國民貯蓄金庫デアリ
マス、私ハ統制ト云フモノハ法律ニ依ル強
制ノミヲ統制ト考へテ居ナインデアリマ
ス、統制ノ上乘ナルモノハ法ノ強制ニ依ラ
ザルモノガ寧ロ上乘デアル、強制ノ必要ガ
アルカラ強制ト云フ方法ヲ執ルノデアリ
マスガ、強制ニ依ラズシテ出來ルノガ最上
ノ理想デアリマス、日本ノ全資金ヲ無用ナ
方ニハ行カサナイ、要ルダケノモノハ必ズ
要ル方ニ集メテ行ク、此ノ根本方針ガ、昭
和十二年及ビ昭和十三年ノ春確立ヲ致シテ
居リマス、國家ノ以テ必要トスル事業以外
ノモノニハ投資サヌ、此ノ基本方針ガ立チ、
大體ソレガ出來テ居リマス、又事變以來既
ニ數百億ノ兌換券ノ發行ガアリマスルニ拘
ラズ、之ヲ大部分吸收シテ、僅カニ事變前ニ
較ベテ膨脹シタモノ三十億程度デアリマシ
テ、即チ大統制ガ出來テ居ル、ソレデ集マ
リマシタモノガ公債消費、時局ニ必要ナル社
債、株式ノ拂込、貸出シニ向ツテ居ルノデ
アリマス、唯末梢的ナ非常ニ個人生活ニ摩
擦ヲ感ズルヤウナ統制ハ少イノデアリマシ
ルノデアリマスガ、之ニ對スル大藏大臣ノ
御考ヘハ如何デアルカ、一省ヲ作ルト云フ
ヤウナコトデアリマスカラ、大臣ノ御意見
ヲ伺フノガ適當デハナイカト思ツテ、此ノ
委員會ニ大臣ノオイデヲ御願ヒシタ次第デ
アリマス

テ、大局統制カラ參リマシタノデアリマス、然ル上段々ソレガ精密化スル必要モアリマスノデ、金融統制會モ今度作ルヤウニナリ
マシタガ、私ハ是ハ是ニ於テ初メテ金融統制ガ出來クニアラズシテ、金融統制ノ大綱既ニ成ツテ、大體其ノ後ニ出來タ資金ノ配分ヲ今マデヨリモモット旨クヤルト云フ程度ノモノデアルト思ツテ居ルノデアリマス
次ニ勸業銀行、農工銀行ガ非常ニ過去ニ農民ヲ苦シメタト云フコトデアリマスルガ、是ハ私ハ斯ウ考ヘル方ガ實際ニ當ツテ居ルト思ヒマス、過去ノ農村ハ、農民自體ノ生計ノ收支ガ償ヒ難イノデアリマス、ソコデ亘額ノ借金ヲシテ居リマスルト、假令ソレガ相當緩和シタ條件デモ逆モヤリ切レナイノデアリマス、唯利子ノ取立、元本ノ償還ナドノヤリ方ガ、所謂其ノ時ノ行員ノ手心ガ俗ニ申スエガツナイ、緩急宜シキヲ得ナイ者モアツタノデアリマスガ、大體勸銀ヤ農工銀行ノ利子ノ方ガ農村ノ所謂金貸ノ利子ニ較ベ非常ニ安イ、一番高イノハ個人ノ金貸カラ借リテ居ル金デアリマス、唯個人ノ方ハ人ニ依ツテハ、所謂因業ナ金貸デナイ者ハ、銀行ハ規則ガアルガ、規則ガナイカラ、偶ニハ非常ナ佛ノヤウナ人モアルノデアリマスガ、是ハ個人金貸ガ一番農村ヲ苦シメテ居ル、段々農村經濟ガ良クナツテ參リマシテ、又一般ガ低金利ニナツテ参リマシテ、ソコハ雙方効ラ歩ミ寄ツテ、只今ハ御說ノヤウナ狀態ニナツテ居リマス、之ヲ以テ理想デアルトハ申シマセヌ、色々改善ノ必要モアラウト思ヒマスルガ、大體サウ云フ經過ヲ辿ツテ來タト思フノデアリマス

第六類第十一號 日本勸業銀行法中改正法律案外五件委員會議錄 第四回 昭和十七年三月二日

農工銀行ト云フモノガアルケレドモ、殆ド今ハ同シデヤナイカト云フ御話デアリマス、
勸銀ト農銀ハ餘程使命ガ似テ居リマスガ、
興銀ト勸銀ハ非常ニ違ヒマス、現在行員ア
モ興業銀行ニハ鑛山業デアルトカ、工業ノ
方面ノ知識ノアル者ガ居リ、擔保ハ工場財
團等ヲ擔保ニ致シ、専ラ工業金融、鑛山金
融其ノ他ニ、知識カラ言ツテモ、經驗カラ
言ツテモ詳シイ者ガ居リマス、又所謂顧客關
係カラ申シマシテモ、サウ云フ方ト沿革的ニ
長イ結付キモアルノデアリマス、勸業銀行ノ
方ハ不動産ガ主タル擔保デアリ、農林業、
水產業ノ方ニ主トシテ金融ヲ致シテ居リマ
シテ、現在デモ金融ヲ致シテ居リマス、貸金
額モ方面モ大分違ツテ居リマス、同ジモノ
モアリマスルガ、違ツテ居リマス、サウ云
フ特色ガアルノデアリマス、隨ヒマシテヤ
ハリ是ハ別ニアツタ方ガ宜シイ、一緒ニシ
テ特色ガナクナリマスト、ドチラモ不便ヲ
感ズルト云フヤウナコトニナルノデアリマ
ス、然ラバ何故ニ今回勸銀ニ所謂工業金融
的ナ方面ニ進出フ認メルカト申シマスト、
是ハ資金關係カラ申シマシテ、資金ノ蓄積ガ
御承知ノ如ク過去ノ數倍、十倍ニモ近ク一國
ノ資金ガ集積スルト云フ狀況ニアリマス、ソ
レハ然ラバ何處へ持ツテ行クカト云フト、
是ハ戦費ヲ調達ノ國債、戰時ニ必要ナル事
業ノ資金ニ向ケル、外ヘ向ケル餘裕ハナイ、
向ケル見込モナイ、大部分ガソレニナツテ
居ル、サウ云フコトニナルト實ハ勸業銀行
方面ハ興業銀行方面ヨリモ活動量ガ——全
面的ニ金融機關ノ活動量ハ増加シテ居ル
ガ、勸業銀行ノ方ガ活動量ガ少イ、併シ資
金ハ或ハ預金ニシテモ債券ニシテモ相當集
計テ居リマス、ソレヲ全部不動産金融ニ向
ケル譯ニハ行カナイ、向ケル餘裕モナイ、
ソコデ資金ハ其處ニ集リマスカラ、之ヲ工
業方面ニ出サセル方ガ一國ノ資金ノ配分ト
シテ宜シイ、元ノ特色ハ持ツテ居リマスガ
サウ參ル、ソコハ普通銀行デモサウデアリ
マス、御言葉ニモアツタヤウデアリマスガ、
私ハ簡単ナ言葉デ言ヘバ「コンマーシャル・
バンク」ガ「イングストリー・バンク」ニ變ル
ノダ、元商業金融ヲ主トシテ居ツタモノガ
今ハ國民ノ蓄積ニ依リ工業、鑛山金融ニ直
接ニ乗出ス、或ハ間接ニソレ等ノ興業債券
ヲ引受ケル、或ハ社債ヲ引受ケテ乗出スノ
デアル、斯ウ云フ時代ニナツテ居ル、然ラ
バドレモ是モサウナレバ一緒にナルガ宜イ
デハナイカト云フト、是ハサウハ參ラナイ、
詰リ統制ト云フコトハ要スルニ國家目的ヲ
達スル場合ニ一定ノ經濟上ノ計畫ガナクテ
ハナラヌ、經濟ハ孤立デハアリマセヌ、今
デ言ヘバ戰爭目的ヲ達シ國力ヲ充實シ、戰
後ノ經營マデモ考ヘテ國家計畫、其ノ中ノ
經濟計畫、ソレヲ實現スルノガ統制デアリ
マス、何モカモ一ヅニシテ「レッテル」ヲ貼
替ヘルノガ統制デハナイ、折々サウ云フコ
トヲ履達ヘテ色々摩擦ヲ起シテ居リマスガ、
分立シテ居ル方ガ妙味ノアル場合ハ分立シ
タ方ガ宜イノデアリマス、之ヲ一緒にシマ
ストオ客ノ關係モ何モ皆違フノデアリマス、
ナント云フテモ從來其ノ人ノ資產狀態、事
業ノ狀況ヲ知ツテ居ル銀行ガ一番金ガ貸シ
易イ、サウ云フモノヲ一緒ニスルト段々特
色ガナクナリマス、全金融ノ大キナモノヲ
一本デ振廻セルモノデハナイノデアリマス、
オ互ヒニ仕事ニハヤリ易イ程度ト云フモノ
ガアル、一ツニ纏ツタラ長鞭馬腹ニ及バズ
ト云フコトモアリマスノデ、ソレデヤハリ

普通銀行モアツタガ宜シイ、勸業銀行モアツタガ宜シイ、農工銀行ト勸業銀行ヘ似テ居リマスカラ、合併シテ農工銀行ガ勸業銀行ノ支店ニナル、是モ宜シイ、併シナガラ何デモカソウデアリマス、マダノ相當合同程ノ必要ハナイト思ヒマス、普通銀行ノ合同デモサウデアリマス、段々ニ是ニ反対シテ居ルモノモアリマス、段々ニ是ハ基礎其ノ他ノコトヲ考ヘテ合同サシタ方ガ宜イノデアリマスガ、併シナンデモカソウモ直グ明日ヤレト云フヤウナ方針デハ參ラナイ、實際ニ弊害ナク、サウシテ其ノ間ニ分立シテ居ル方ガ動キ易イ時ニハ其ノ方ガ宜シイ、是デ參リマス、無暗ニ合併スレバ機能方一時止リマス、是ハ御言葉ノ中ニ段々其ノ弊ガ少ナクナツタト云フ御話デアリマスガ、二ツガ一ツニナツタ爲ニ元ノ一ツ半ノ働キデハ困ル、斯ウ云フコトハ昔隨分アリマシタコトデ、只今ハ段々少クナリマシタガ、ソレガナイ程度ニモノヲ持ツテ行カナケレバナラヌト思ツテ居ルノデアリマス、鬼角計畫統制經濟ノ非常ナル弊ハ、ヤハリ一面自由競争ノ長所ガ發揮出来ナイコトガ一ツ、一方カラ言フト、幾ラ損シテモ國家ガ堅要ノ事業デアルト云フノデ尻ヲ拭ツテ吳レル、此ノ安心ガ能率ヲ上ゲナイ、物資ヤ労力ヲ粗末ニスル、詰リ效率ヲ上ゲナイト云フコトニナル、私ハ計畫經濟ノ前途ニ對シテ他ニ懸念ハ持ツテ居ナイノデアリマスガ、是ガ昂ジタラ大變ナ問題デアルト思ツテ居リマスノデ、此ノ分立統合ト云フコトモ色々見地カラ實際ニ效率ヲ上ゲルヤウニ致サ謂一元的統制ガ紊レテハ困リマス、一元ト云フコトハ何モ凡ユル機關ヲ一ツニスルト

云フ意味デハアリマセヌ、又凡ニユル機關ガ同ジ速度デ同ジ活動ヲスルト云フコトデモアリマセヌ、國家目的ヲ達スル爲ニ色々經濟計畫ガアリ、金融計畫ガアル、其ノ計畫ノ通リニ物事ガ調和ヲ以テ各ノ分ヲ以テ動クノガ一元的統制デアルノデアリマス、ソレヲ達シ得ナイヤウナ方向ニ行ク時ニハ是ハドンヽ方向ヲ換ヘナケレバナリマセヌ、所謂單一色ニスルト云フ考ヘ方ハ採ラナイ積リデ居ルノデゴザイマス

最後ニ金融省ノ御話デアリマスガ、私寶ハ大藏省ハ金融省デアルト考ヘテ居リマス、質屋マデハヤツテ居リマセヌガ、(笑聲)此ノ間モ申シマシタガ、大藏省ニ今外局等ヲ入レテ主計、主稅、理財、銀行、爲替、會社、監理、ソレニ專賣、營繕、預金部、國民貯蓄獎勵局ト十一アリマス、此ノ中デ主計、主稅ガ豫算ヲヤリ稅ヲ取ル、營繕ハ官廳營繕、專賣ハ專賣ヲヤツテ居ル、此ノ四ツ以外ハ全部金融デアリマス、理財、會社ト云フノハ普通ノ國內金融デアリマス、預金部ハ御承知ノヤウニ金ヲ集メル方ノ一ツノ部デアリマス、國民貯蓄獎勵局ハ國家ノ全資金ヲ集メテ來ルト云フ、働キヲ致シテ居リマス、爲替ハ外ノコトヲ致シテ居リマス、銀行ハ銀行信託、監理局ハ保險及び取引所等ノコトヲ致シテ居リマス、大體はガ金ノ分配ノ方面ト集積ノ方面、ソレカラ經理ノ方面、外ノ爲替其ノ他資金ノ方面等デアリマス、私ハ此ノ構想ニ付キマシテハ、英米其ノ他ノ三國トノ關係ガ斷絶致シマシテ、對外トウ云フ關係ニナル、ソレ以外ノ國ニ「ドイツ」ノ關係ガアル、尙ホソレ等ヲ通ジマシ

テ「スイス」トノ關係モアリマスルガ、今後
ドウスルト云フコトハ今具體的ニ御話申上
ゲルコトハ出來マセヌガ、觀念的ニハ東亞
共榮圈ノ外ノ金融ト國内金融トハ非常ニ關
聯ガアル、其ノ中資金ノ集積ノ方ト資金配
分ノ方、大體ノ觀念ハ斯ウ來テ居リマスカ
ラ私ハ大藏省ガ金融省デアル、斯ウ云フ考
ヘ方デ居リマス、特ニ今金融省ヲ設クルト
云フ考ヘ方ハ持ツテ居リマセヌ

○松田(正)委員 御答辯ニ依リマシテ大臣ノ

御意見ハサウデアラウト私ハ考ヘテ居ツタ

ノデアリマスガ、何レ記錄モ出来ルコトデ

アリマスカラ、其ノ記録ヲ參照致シマシテ、

將來合併等ニ付テノヤリ方ニハ自分モ参考

ニ致シタイト存ジマス

金融省ノ問題ハ大藏省ガ既ニ金融省デア

ルト云フコトニナリマスレバ、別ニ金融省

ヲ設ケル必要ハナイ譯デアリマスガ、併シ

獨立ノ金融省ト云フモノガ出來タノト、今

大臣ノ言ハレル大藏省ガ金融省デアルト云

フノトハ大分相違ガアルノデアリマス、是

ハ併シ時間ガ掛ルカラ此處デ御質問ハ申上

ガマセヌ、合併等ニ付テノ御意見ハ十分諒

解致シマシタ、唯勸業銀行ト興業銀行ト是

ハ別ニシテ置イテ宜イノダ、斯ウ申サレル

ノデスガ、ソレハ別ニシテ置イテモ宜イデ

ガ入ツテ來テ居ル、デアルカラ、斯

ウシテ入ツテ行クノナラバ一縁ニシタラド

ウダト云フ議論ガ起ル、是ハ當然デス、ソ

業銀行ガ入ツテ來テ居ル、デアルカラ、斯

ウシテ入ツテ戴イタ方ガ宜シイト言ツテ居ル、

ウシマストヤハリ勸業銀行ト興業銀

行トハ表面ハ違ツテ居リマスケレドモ、

勸業銀行ハ興業銀行ノ方ニ段々入ツテ行

ツテ居ルコトハ事實デアリマス、ソレナラ

カ、手形ガナイカト皆デ聞キ合ツテ居リマ

スガ、キツト此ノ勸業銀行ニ手形ヲ許シタ

ラ、手形ト云フモノハ足ガ短イ、回轉ガ早

イ、而モ相當ノ利廻リニナリマスカラ、斯

ウ云フモノニ重キヲ置イテ、一方農民ノ方

テ實際ナクテナラナイ金ノ出シ方ガ少シ

嚴重ニナツテ來テ、不動産擔保貸ヲ輕ンジ

テ來ル惧レデアルノデハナカラウカト云フ

コトハ、是ハ國民カラ申シマスト當然ソコ

ニ考ヘガ來ルノデハナイカト思ハレル、仍

テ先程ノ質問モ致シタノデアリマスガ、今

日本銀行ハ四分ノ配當ヲ保障サレテ、五分

配當以上ノモノヲ國庫ニ納メルト云フコト

ニナツテ居リマスルガ、獨リ勸業銀行ダケ

ハ一割ノ配當ヲヤツテ、殘ツテ居ル農工銀

行等モ高率ノ配當ヲ致シテ居ル、ソレデア

ノ勸業銀行ノ建物ノ中ニ一タビ入ツテ見マ

スレバ、夏モ「マスクヲ掛ケナケレバナラヌ

程涼シク、冬行ケバ團扇ヲ使ハナケレバナ

ラヌ程温カイト云フヤウナ暮シ方ヲヤツテ

居ツテ、而モ一割ノ配當ヲ致シテ居ル、ア

レハ皆農民ノ膏血ヲ搾ツタ結果デヤナイカ

ト、實際民間デハサウ言ウテ居リマス、其

ノ勸業銀行ガ此ノ上ニ又興業銀行ノ仕事

ヲシテ行クト云フコトニナリマスト、一層

農民ノ方ニ出ス金ヲ濫ルノデハナイカ、斯

ウ誰デモ一應ハ疑フ所デアリマス、現在興

業銀行ニ參リマシテ、是ハマダ近イ話デア

リマスガ、五万圓バカリ金貸シテ貰ヒタイ

ト言ウタラ、五万ヤ六万ハ勸業銀行ヘ

スガ、キツト此ノ勸業銀行ニ手形ヲ許シタ

ラ、手形ト云フモノハ足ガ短イ、回轉ガ早

イ、而モ相當ノ利廻リニナリマスカラ、斯

ウ云フモノニ重キヲ置イテ、一方農民ノ方

テ實際ナクテナラナイ金ノ出シ方ガ少シ

嚴重ニナツテ來テ、不動産擔保貸ヲ輕ンジ

テ來ル惧レデアルノデハナカラウカト云フ

コトハ、是ハ國民カラ申シマスト當然ソコ

ニ考ヘガ來ルノデハナイカト思ハレル、仍

テ先程ノ質問モ致シタノデアリマスガ、今

日本銀行ハ四分ノ配當ヲ保障サレテ、五分

配當以上ノモノヲ國庫ニ納メルト云フコト

ニナツテ居リマスルガ、獨リ勸業銀行ダケ

ハ一割ノ配當ヲヤツテ、殘ツテ居ル農工銀

行等モ高率ノ配當ヲ致シテ居ル、ソレデア

ノ勸業銀行ノ建物ノ中ニ一タビ入ツテ見マ

スレバ、夏モ「マスクヲ掛ケナケレバナラヌ

程涼シク、冬行ケバ團扇ヲ使ハナケレバナ

ラヌ程温カイト云フヤウナ暮シ方ヲヤツテ

居ツテ、而モ一割ノ配當ヲ致シテ居ル、ア

レハ皆農民ノ膏血ヲ搾ツタ結果デヤナイカ

ト、實際民間デハサウ言ウテ居リマス、其

ノ勸業銀行ガ此ノ上ニ又興業銀行ノ仕事

ヲシテ行クト云フコトニナリマスト、一層

農民ノ方ニ出ス金ヲ濫ルノデハナイカ、斯

ウ誰デモ一應ハ疑フ所デアリマス、現在興

業銀行ニ參リマシテ、是ハマダ近イ話デア

リマスガ、五万圓バカリ金貸シテ貰ヒタイ

ト言ウタラ、五万ヤ六万ハ勸業銀行ヘ

スガ、キツト此ノ勸業銀行ニ手形ヲ許シタ

ラ、手形ト云フモノハ足ガ短イ、回轉ガ早

イ、而モ相當ノ利廻リニナリマスカラ、斯

ウ云フモノニ重キヲ置イテ、一方農民ノ方

テ實際ナクテナラナイ金ノ出シ方ガ少シ

嚴重ニナツテ來テ、不動産擔保貸ヲ輕ンジ

テ來ル惧レデアルノデハナカラウカト云フ

コトハ、是ハ國民カラ申シマスト當然ソコ

ニ考ヘガ來ルノデハナイカト思ハレル、仍

テ先程ノ質問モ致シタノデアリマスガ、今

日本銀行ハ四分ノ配當ヲ保障サレテ、五分

配當以上ノモノヲ國庫ニ納メルト云フコト

ニナツテ居リマスルガ、獨リ勸業銀行ダケ

ハ一割ノ配當ヲヤツテ、殘ツテ居ル農工銀

行等モ高率ノ配當ヲ致シテ居ル、ソレデア

ノ勸業銀行ノ建物ノ中ニ一タビ入ツテ見マ

スレバ、夏モ「マスクヲ掛ケナケレバナラヌ

程涼シク、冬行ケバ團扇ヲ使ハナケレバナ

ラヌ程温カイト云フヤウナ暮シ方ヲヤツテ

居ツテ、而モ一割ノ配當ヲ致シテ居ル、ア

レハ皆農民ノ膏血ヲ搾ツタ結果デヤナイカ

ト、實際民間デハサウ言ウテ居リマス、其

ノ勸業銀行ガ此ノ上ニ又興業銀行ノ仕事

ヲシテ行クト云フコトニナリマスト、一層

農民ノ方ニ出ス金ヲ濫ルノデハナイカ、斯

ウ誰デモ一應ハ疑フ所デアリマス、現在興

業銀行ニ參リマシテ、是ハマダ近イ話デア

リマスガ、五万圓バカリ金貸シテ貰ヒタイ

ト言ウタラ、五万ヤ六万ハ勸業銀行ヘ

スガ、キツト此ノ勸業銀行ニ手形ヲ許シタ

ラ、手形ト云フモノハ足ガ短イ、回轉ガ早

イ、而モ相當ノ利廻リニナリマスカラ、斯

ウ云フモノニ重キヲ置イテ、一方農民ノ方

テ實際ナクテナラナイ金ノ出シ方ガ少シ

嚴重ニナツテ來テ、不動産擔保貸ヲ輕ンジ

テ來ル惧レデアルノデハナカラウカト云フ

コトハ、是ハ國民カラ申シマスト當然ソコ

ニ考ヘガ來ルノデハナイカト思ハレル、仍

テ先程ノ質問モ致シタノデアリマスガ、今

日本銀行ハ四分ノ配當ヲ保障サレテ、五分

配當以上ノモノヲ國庫ニ納メルト云フコト

ニナツテ居リマスルガ、獨リ勸業銀行ダケ

ハ一割ノ配當ヲヤツテ、殘ツテ居ル農工銀

行等モ高率ノ配當ヲ致シテ居ル、ソレデア

ノ勸業銀行ノ建物ノ中ニ一タビ入ツテ見マ

スレバ、夏モ「マスクヲ掛ケナケレバナラヌ

程涼シク、冬行ケバ團扇ヲ使ハナケレバナ

ラヌ程温カイト云フヤウナ暮シ方ヲヤツテ

居ツテ、而モ一割ノ配當ヲ致シテ居ル、ア

レハ皆農民ノ膏血ヲ搾ツタ結果デヤナイカ

ト、實際民間デハサウ言ウテ居リマス、其

ノ勸業銀行ガ此ノ上ニ又興業銀行ノ仕事

ヲシテ行クト云フコトニナリマスト、一層

農民ノ方ニ出ス金ヲ濫ルノデハナイカ、斯

ウ誰デモ一應ハ疑フ所デアリマス、現在興

業銀行ニ參リマシテ、是ハマダ近イ話デア

リマスガ、五万圓バカリ金貸シテ貰ヒタイ

ト言ウタラ、五万ヤ六万ハ勸業銀行ヘ

スガ、キツト此ノ勸業銀行ニ手形ヲ許シタ

ラ、手形ト云フモノハ足ガ短イ、回轉ガ早

イ、而モ相當ノ利廻リニナリマスカラ、斯

ウ云フモノニ重キヲ置イテ、一方農民ノ方

テ實際ナクテナラナイ金ノ出シ方ガ少シ

嚴重ニナツテ來テ、不動産擔保貸ヲ輕ンジ

テ來ル惧レデアルノデハナカラウカト云フ

コトハ、是ハ國民カラ申シマスト當然ソコ

ニ考ヘガ來ルノデハナイカト思ハレル、仍

テ先程ノ質問モ致シタノデアリマスガ、今

日本銀行ハ四分ノ配當ヲ保障サレテ、五分

配當以上ノモノヲ國庫ニ納メルト云フコト

ニナツテ居リマスルガ、獨リ勸業銀行ダケ

ハ一割ノ配當ヲヤツテ、殘ツテ居ル農工銀

行等モ高率ノ配當ヲ致シテ居ル、ソレデア

ノ勸業銀行ノ建物ノ中ニ一タビ入ツテ見マ

スレバ、夏モ「マスクヲ掛ケナケレバナラヌ

程涼シク、冬行ケバ團扇ヲ使ハナケレバナ

ラヌ程温カイト云フヤウナ暮シ方ヲヤツテ

居ツテ、而モ一割ノ配當ヲ致シテ居ル、ア

レハ皆農民ノ膏血ヲ搾ツタ結果デヤナイカ

ト、實際民間デハサウ言ウテ居リマス、其

ノ勸業銀行ガ此ノ上ニ又興業銀行ノ仕事

ヲシテ行クト云フコトニナリマスト、一層

農民ノ方ニ出ス金ヲ濫ルノデハナイカ、斯

ウ誰デモ一應ハ疑フ所デアリマス、現在興

業銀行ニ參リマシテ、是ハマダ近イ話デア

リマスガ、五万圓バカリ金貸シテ貰ヒタイ

ト言ウタラ、五万ヤ六万ハ勸業銀行ヘ

スガ、キツト此ノ勸業銀行ニ手形ヲ許シタ

ラ、手形ト云フモノハ足ガ短イ、回轉ガ早

イ、而モ相當ノ利廻リニナリマスカラ、斯

ウ云フモノニ重キヲ置イテ、一方農民ノ方

テ實際ナクテナラナイ金ノ出シ方ガ少シ

嚴重ニナツテ來テ、不動産擔保貸ヲ輕ンジ

テ來ル惧レデアルノデハナカラウカト云フ

コトハ、是ハ國民カラ申シマスト當然ソコ

ニ考ヘガ來ルノデハナイカト思ハレル、仍

テ先程ノ質問モ致シタノデアリマスガ、今

日本銀行ハ四分ノ配當ヲ保障サレテ、五分

配當以上ノモノヲ國庫ニ納メルト云フコト

ニナツテ居リマスルガ、獨リ勸業銀行ダケ

ハ一割ノ配當ヲヤツテ、殘ツテ居ル農工銀

行等モ高率ノ配當ヲ致シテ居ル、ソレデア

ノ勸業銀行ノ建物ノ中ニ一タビ入ツテ見マ

スレバ、夏モ「マスクヲ掛ケナケレバナラヌ

程涼シク、冬行ケバ團扇ヲ使ハナケレバナ

ラヌ程温カイト云フヤウナ暮シ方ヲヤツテ

居ツテ、而モ一割ノ配當ヲ致シテ居ル、ア

レハ皆農民ノ膏血ヲ搾ツタ結果デヤナイカ

ト、實際民間デハサウ言ウテ居リマス、其

ノ勸業銀行ガ此ノ上ニ又興業銀行ノ仕事

ヲシテ行クト云フコトニナリマスト、一層

農民ノ方ニ出ス金ヲ濫ルノデハナイカ、斯

ウ誰デモ一應ハ疑フ所デアリマス、現在興

業銀行ニ參リマシテ、是ハマダ近イ話デア

リマスガ、五万圓バカリ金貸シテ貰ヒタイ

ト言ウタラ、五万ヤ六万ハ勸業銀行ヘ

スガ、キツト此ノ勸業銀行ニ手形ヲ許シタ

ラ、手形ト云フモノハ足ガ短イ、回轉ガ早

イ、而モ相當ノ利廻リニナリマスカラ、斯

ウ云フモノニ重キヲ置イテ、一方農民ノ方

テ實際ナクテナラナイ金ノ出シ方ガ少シ

嚴重ニナツテ來テ、不動産擔保貸ヲ輕ンジ

テ來ル惧レデアルノデハナカラウカト云フ

コトハ、是ハ國民カラ申シマスト當然ソコ

ニ考ヘガ來ルノデハナイカト思ハレル、仍

テ先程ノ質問モ致シタノデアリマスガ、今

日本銀行ハ四分ノ配當ヲ保障サレテ、五分

配當以上ノモノヲ國庫ニ納メルト云フコト

ニナツテ居リマスルガ、獨リ勸業銀行ダケ

ハ一割ノ配當ヲヤツテ、殘ツテ居ル農工銀

行等モ高率ノ配當ヲ致シテ居ル、ソレデア

ノ勸業銀行ノ建物ノ中ニ一タビ入ツテ見マ

カト云フコトデアリマスガ、是ハ尙ホ醜ツ
テ見マスト、例ヘバ商工省系統、農林省系
統、地方廳ノ經濟、納稅ノ官吏ヘ非常ニ事
業ノ上ニ利害關係ガアリ、大裝裟ニ申セバ
活殺與奪トモ思ヘルヤウナコトヲ其ノ權能
トシテ持ツテ居ル、是モ中々實情カラ云
フト大キナ權限デアリマス、人民ニ利害
ノ深イモノデアリマス、而モ統制法規ト云
フモノハ實ニ澤山ノ種類ノモノガ出マシテ、
眞ニ之ヲ理解シテ運用シテ行クト云フコト
モ非常ナ骨デアリマス、殊ニ警察官ナドニ
致シマシテモ、元ハ所謂窃盜トカ、吾々普
通概念ノ刑事ニ關シテノ取締ヲシテ居レバ
宜イモノガ、經濟犯ノ取締ヲシナケレバナ
ラヌ、是ハ非常ニ複雜多岐ノ法令ノ適用
デ、新タニ仕事ノ分野ガ殖エテ來タ、是ハ
非常ナ苦心ダラウト思ヒマス、其ノ他色々
各方面ヲ考ヘテ見マシテモ、私共トシテハ
小サイ人情カラ云フト、稅務官ノ優遇ダ
ケデモヤリタイノデアリマスガ、總テヲ考
ヘマスト、ドウモ一ツダケヤルト云フコト
ガ中々イカヌ、ヤハリ廣ク考ヘナケレバナ
ラヌト云フ考ヘ方ニナリマス、然ラバ一般
ニ官吏ノ增俸ヲスルカト云フト、官吏ノ生
活ト云フコトヲ總テノ狀態カラ切離シテ考
ヘレバ必要デアリマセウ、一方非常ナル増
俸ヲ國民ハ忍ンデ納稅シテ貰ハナケレバナ
ラヌノデ、各種ノコトヲ苦ンデ居ル、是方
前ノ世界大戰ノ時ノ物價騰貴ノ狀況ナラ
私ハ増俸ヲシテモ宜イト思ヒマス、日本方
苦シマズニ富ハ増シタ、今ハ様相ハ違ツテ、
全國民打ツテ一丸トシテ行カナケレバナラ
ヌト云フ時デアリマス、此ノ際一般ノ増俸
ト云フ理由モアルガ、全局ヲ考ヘルト忍バ
ナケレバナラヌ、併シナガラ相當苦シイ所

モアリマスノデ、今回モ多少デハアリマス
ガ、家族手當制度ノ改正モ致シマシテ、本
當ノ一人暮シ、夫婦暮シノ樂ナ人ニハ依然
トシテ殆ド影響ハナイデセウガ、薄給デ多
額モ又相當程度ニアリマス、是ハ非常ニ健
康ナ、健全ナ國民ガ必要デアルト云フコト
カラモ其ノ方ガ妥當ト認メラレマスシ、是
ナ金ガ行キマスシ、又所得稅ニ於ケル控除
デ我慢シテ貰ハナケレバナラヌ、一方カラ
考ヘマスト甚ダ氣ノ毒ニ思ヒマスケレドモ、
只今トシテハドウキ著シイ稅務官吏ノ優遇
案ヲ考ヘルト云フコトハ甚ダ困難ニ感ジテ
居ルノデアリマス

○由谷委員長　此ノ際委員諸君ノ御諒解ヲ
得タインデスガ、大藏大臣ハ貴族院ノ豫算
總會カラ大變ナ督促ガ來テ居リマスカラ行
ツテ貰ヒマス、其ノ代リ適當ナル時期ニ尙
ホコチラニ來テ貰フヤウ御約束ヲ御願ヒ致
シマス——駒井君

○駒井委員　先日稅務代理士法案ニ付テ池
田政府委員ノ詳細ナル御答辯ヲ戴イタノデ
アリマスガ、主稅局長ガ見エマシタカラ、
二三ノ點ヲ補足的ニ御尋ネ致シタイト思ヒ
マス、稅務代理士法案ノ全文ヲ通讀致シテ
見マスト、稅務代理士ノ品位ノ保持或ハ素
質ノ向上ト云フコトハ、全法案ヲ通ジテ看
取セラレルノデアリマス、併シナガラ稅務
代理士ノ品位ヲ向上セシメル、或ハ素質ヲ
良化サセルト云フヤウナコトニ付キマシテ
ハ、獨リ此ノ法律案ガ制定セラレマシテ、
稅務代理士ノ制度ガ確立シタカラト云フコ
トノミヲ以テシテハ、之ヲ達成スルコトハ
出來ナイト思フノデアリマス、此ノ點ニ關
シマシテハ、何カ特別ニ御考ヘニナツテ居

○松隈政府委員 稅務代理業ヲ營ミマスル者ハ、國民ノ納稅義務ニ關聯シテノ職業デアリマスル爲ニ、從來カラモ業者ノ品位、素質ノ向上ヲ希望シテ居ツタノデアリマスガ、遺憾ナガラ數多クノ稅務代理業者ノ中ニハ納稅者ニ對シテ故ナク異議ノ申立ヲ勸誘致シタリ、或ハ甚ダシキニ至リマシテハ租稅ノ違脱ニ付テ指示ヲ致ス者等ガアリマシタコトハ、非常ニ遺憾トスル所デゴザイマス、ソコデ今回新タニ稅務代理士シテ得定致シマシテ、從來稅務代理業ヲ營ンデ居リマシタモノヲ許可制度ト致シマシテ、之ニ依リマシテ適格者ヲ稅務代理士トシテ得ルコトニ努メマスルト云フコトニ相成リマスレバ、自然品位、素質ノ惡イ者ハ落伍致シテ參リマスノデ法案ノ制定ニ依リマシテ其ノ點ハ餘程改善サレルト思フノデアリマス、法案ノ有無ニ拘ラズ稅務代理業ヲ營ム者ノ素質ノ向上ノ必要デアルコトハ勿論デアリマスガ、法案ノ提案ニ依リマシテ、其ノ實施ノ曉ニ於キマシテハ、大藏大臣ニ於テ監督權モ得ルコトニ相成リマスルノデ、一方稅務代理士會ヲ通ジマシテ、所期ノ目的ヲ達スル上ニ於テ相當效果ガアルコトト存ジテ居リマス

ヲ確保スル爲ニ、色々惡イ事モスルト云フ
ヤウナコトモアリマシテ、兩々相俟ツテ稅
務代辦人ノ地位ヲ低カラシメタ、併シ斯ウ
云フ業務ガ必要ダト云フコトハ、是ハ申ス
マデモナイコトデアリマシテ、必要ニ依ツ
テ生レタ業務デアリマスカラ、成ベク才能
ノアル、教養ノアル人々ガ此ノ業務ニ携ハ
リ得ルヤウニ、導キ下サラナケレバナラヌ
ト思フノデアリマス、ソレニハ先づ第一ニ
稅務當局ニ於カレテモ、勿論此ノ法律制憲
ガ出來ル譯デアリマスカラ、稅務代理士ノ
地位ニ對シテ十分之ヲ認メ、相當ノ待遇ヲ
與ヘテ下サルト思フノデアリマス、同時ニ
此ノ稅務代理士ノ報酬ノ問題ト云フコトガ、其ノ際
ヲ御尋ネ致シタインデアリマスガ、其ノ際
極メテ重要ナル問題ニナルト思フノデア
リマス、先日池田政府委員ニ此ノ報酬ノ聽
ニハ成功報酬ハ認メナイ積リデアルト云フ
御答ヘガアリマシタ、ソレカラ私ハ重キテ
異議ノ申請或ハ審査請求等ノ場合ニ於テ、
相當ノ結果ヲ得タ場合ト、何等ノ結果ヲ得
ナイ場合ト同一ノ報酬シカ取レナイト云フ
コトデハ、是ハ稅務代理士ガ一つノ事件ヲ
扱ヒニ付キマシテ、十分ナル努力ヲスルト
云フコトヲシナイグラウ、ソレデハドウモ
困ルノデ、成功報酬ト云フ言葉ガ當ルカドバ
ウカソレハ疑問デアリマスケレドモ、兎ニ
角相當ノ結果ヲ得タ場合ニ於テハ、之ニ對
スル報酬ヲ取り得ルト云フ途ガナケレバナ
ラナイノデハナイカト御尋ネシタノデアリ
マス、ソレニ對シテ池田政府委員カラ、其
ノ點ハ十分考ヘテサウ云フ風ニシタイト云
フ御話ガアリマシタ、併シ尙ホ今日此ノ點
ヲ、モウ少シハツキリト御説明ヲ願ツテ置

キタイト思ヒマス

○松隈政府委員 稅務代理士法制定ノ曉ニ
於キマシテ、税務代理士トシテ業務ニ携ハ
ル者ガ人格的ニ申シテモ、又手腕ノ上カラ
見マシテモ、優良ナル素質ノ者ガ之ニ從事
シテ戴クヤウナ風ニ方針ヲ執ツテ參ルベキ
デアルト云フ御意見ニ對シテハ、洵ニ同感
デゴザイマス、法律ノ資格要件ニ付テモ其
ノ趣旨デ定メテゴザイマス、又不適當ナ
者ハ假令一旦税務代理士ニナリマシテモ、
許可ヲ取消ス等ノ方法モ設ケテアル次第デ
ゴザイマス、尙ホ此ノ點ト關聯致シマシテ、
相當素質ノ優良ナル者ガ從事スルニ當リマ
シテハ、報酬ノ點ニモ留意シナケレバ、結
局良イ人ハ此ノ事業ニ携ハラナクナルト云
フ點モ仰セノ通りデアルト思ヒマス、唯將
來認可スベキ報酬ニ付キマシテハ、未ダ具體
的ノ案ヲ作ルマデニ至ツテ居リマセヌカ
ラ、大體ノ考ヘ方ヲ申上ゲテ御参考ニ供シ
タイト思フノデアリマス、一口ニ報酬ト申
シマシテモ、税務代理業ニモ色々ノ事務ガ
ゴザイマス、例ヘバ書類ノ作成、審査ノ請
求、税務相談等、各種ノモノガアリマシテ、
又同一ノ事項ニ付キマシテモ、事件ニ付テ
難易ノ差ガアリマスノデ、一律ニ之ヲ定メ
ル譯ニハ行キ兼ネルト思フノデアリマス、
現在ニ於ケル實際ノ料金ト申シマスルモノ
モ、或ル程度參考ト致シマシテ決メタイト
思フノデアリマス、其ノ大體ノ方針ト致シ
マシテハ、書類ノ作成、審査ノ請求、税務
相談等、各税務代理業ニ屬スル事項毎ニ報
モ申上げマシタ通り其ノ仕事ニハ自ラ難易
ノ差ガアルノデアリマス、之ヲ全然同一ノ

報酬トスル譯ニハ參リマセヌカラ、其ノ難易ニ依リ、マシテ報酬ニ差等ヲ設ケルヤウニ致シタイト存ズルノデアリマス、ソコデ仕事ノ難易ハ何ニ依ツテ判断スルカト云フコトデアリマスガ、税金ノ種類、課税標準額ノ大小等ニ依ツテ、或ル程度推定致シタ伊ト思フノデアリマス、例ヘバ個人ノ營業税、法人税、相續税、個人ノ所得税ト云ツタヤウナ税目ニ依リ、或ル程度難易ガ分レテ參ツテ居ルヤウデアリマスカラ、ソレモーツノ標準デアリマス、ソレカラ大キナ事件ト、小サイ事件ト云フコトハ、結局稅務ニ於テハ大體、課税標準ニ依ツテ、何段階カニ分ケタナラバ、分ケ得ラレナイコトナナイデハナイカト思フノデアリマス、次ニ問題デアリマス所ノ所謂成功謝金即チ審査請求等ノ場合ニ於キマシテ、減免セラレマシタ税額ヲ標準トシテ、其ノ何割ト云フガ如キ報酬ヲ認メルカドウカト云フ點ニ付キマシテハ、之ヲ認メルト國民ノ納稅思想ノ善導上如何カト思ハレル節モアルノデアリマスガ、又是ガ脱税等不正行爲ヲ刺戟スル虞レモアルノデアリマスカラ、減免税額ノ何割ト云ツタヤウナ標準ノ成功謝金ハ、將來認メタクナイト思ツテ居リマス、尤モ事件ガ依頼者ニ有利ニ解決サレマシタ場合ト、然ラザル場合ト全然同一ノ報酬ニ依ラシメルト云フコトハ、社會常識上適當デナイト思ヒマス、又サウ云フコトデアツテハ稅務代理士ガ委嘱者ノ爲ニ、一生懸命仕事ヲシナイ、斯ウ云フコトニナレバ依頼者ノ利害ヲ圖ル所以デモアリマセヌノデ、委嘱者ニ有利ニ解決サレマシタ場合ニハ、報酬ヲ一定倍スルト云フコトニ致シマシテハ稅務代理士ヲシテ、納稅者ノ利益ヲ擁護スル

ノ熱意ヲ持タシメタイト存ジテ居リマス、
重ネテ申シマスガ從來行ハレテ居ルヤウナ
減免税額ノ何割ト云フガ如キ報酬ノ定メ方
デナク、委囑者ニ有利ニ解決サレマシタ場
合ニハ、手數料ヲ一定倍數更ニ取り得ル、斯
ウ云フヤウニシタラ如何カト思ツテ居リマス、尙ホ右ニ申シタヤウニ報酬ノ他ニ、旅
費宿泊料ノ如キ實費辨償ノモノハ、各々適
當ト思ハレル範圍ニ於テ認メテ參ルコトハ
當然グラウト思ヒマス、以上大體ノコトヲ由
上ゲマシタガ要スルニ報酬ヲ餘リ高ク定メ
マスト納稅者ニ迷惑ヲ及ボスコトニナリ、
反對ニ餘リニ低ク抑ヘマスト、稅務代理士
ノ生活ヲ脅威シ、ソレデハ素質ノ優良ナ人
ヲ迎ヘ得ル所以ニアリマセヌ、素質が低下
シタリ、或ハ生活上脅威ガアルト云フコト
ニナルト、徒ニ事件件數ヲ漁ツテ、爲ニ不
正ヲ诱发スルト云フ虞レモアリマスノデ、
此ノ間ノ事情ヲ十分考慮致シマシテ、且ツ
現在ドノ程度ニ取ツテ居ルカト云フコトモ
參酌致シタ上適當ナ標準ヲ定メシタルヤウ
ニ、稅務代理士會ヲ指導シテ參リタイト思
ヒマス

場合ト然ラザル場合ニ於テハ、十分ナル懸
隔ヲ付ケタ標準ヲ御決メニナルコトヲ希望
致シマス、ソレカラ先程松田委員カラ税務
官吏ノ優遇ニ付テ御尋ねガ大藏大臣ニアリ
マシタガ、私モ同ジヤウニ税務官吏ノ優遇
ヲ十分ニシテ戴カナケレバナラヌト思フ、
税務官吏ノ取扱ツテ居ル仕事ト云フモノハ
中々重要ナモノニアリマシテ、而モ相當ノ
素養ト経験トガナケレバナン得ナイコトヲ
致シテ居ルノデアリマス、此ノ税務官吏ノ優
遇ニ付キマシテハ、大藏大臣カラモ御答辯ガ
アリマシタガ、今後十分ニ考慮シテ戴キタ
イト思ヒマス、偶、此ノ税務代理士法ガ議會ニ
提案ニナリマシタノデ、税務官吏トシテハ退
官後ノ職場ヲヨコニ得タヤウナ感ジヲ致シ
テ居ルノデアリマス併シナガラ私ハ其ノ意味
於テモ税務代理業務ガ公認セラレテツノ
制度ガ出来タコトハ結構デアリマスガ、税
務官吏ノ退官後ノ職場トシテノミ限定スル
考ヘ方ハ排シテ貰ヒタイ、實際業務ニ携ラ
ウトシテ此ノ際研究モシ、其ノ爲ニ勉學ヲ
シテ初メカラ此ノ途ニ入ラウト云フ相當ノ
人モアツテ然ルベキデハナイカ又單ニ税務
官吏ト限ラズ或ハ大藏次官ヲシタ人デモ税
務代理業務ニ携ツテ貰ハナケレバナラナ
イ、又サウ云フ人ガ入ツテ來ナケレバナラ
ナイト考ヘルノデアリマス、税務代理士ノ
素質ノ向上品位ノ保持ト云フコトニ付テハ
尙ホ今後トモ御研究ヲ願ヒタイト思ヒマス、
是ハ希望ヲ申上ゲテ置キマス、尙ホ先般池
田政府委員ノ御答辯ノ中ニ辯護士、計理士
ガ特殊ノ自分ニ關係ノアル事件ニ付テ偶ニ税
務ノ相談ヲ受ケルト云フヤウナ場合ニ付テ
ハ業務ト看做サナイト云フ風ニ御答ヘガア
ツタヤウニ思ヒマシタ、此ノ點ハドウカト

思ヒマスカラモウ一度御説明ヲ戴キタイ、尙ホソレニ關聯致シマシテ業務デナイ稅務代理行爲代理行爲或ハ報酬ヲ取ラナイ稅務代理士法ノ拘束ヲト云フモノハ、此ノ稅務代理士法ノ拘束ヲ受ケナイデアリマスカ、以上御答ヘヲ願ヒタイト思ヒマス

○松隈政府委員 報酬ノ點ニ付テ重ネテ御話ガゴザイマシタ、從來ハ鬼角所謂成功謝金ニ重點ガ置カレタト云フコトデアリマスガ、サウ致シマスト、先程モ申上ゲタヤウニ弊害ガ動モスレバ生ズル虞ガアリマスノデ、今後ノ方針ト致シマシテハ、稅務代理士ヲ煩ハシテ書類ヲ作成セシメタ、或ハ稅務ノ相談ヲ致シタト云フヤウナ場合ニ於キマシテハ、其ノ行爲自體ニ對シテ或ル程度ノ報酬ヲ取り得ルコトニ定メタイト思ヒマス、而モ委嘱シマシタ事件ガ委嘱者ニ有利ニ解決サレマシタ場合ニ於キマシテハ、ヤハリ或ル程度ノ謝金ヲ認メルト云フコトガ、實際的デモアルシ、又常識的デアルトニ致シタイ、斯様ニ考ヘテ居リマス次ノ點ノ、今回ノ稅務代理士法ノ制定ニ依ツテ、退職稅務官吏ノ退職後ノ職場トスルコトノナイヤウニト云フ御注意ニ付テハ、謹シ御意見ヲ御伺ヒシマシテ、今後ニ於テ稅務官吏ノミノ獨占的職業化スルト云フヤウナコトノナイヤウニ、嚴重ニ取締マスト、稅務官吏ト致シマシテ判任官ノ職ルケレドモ、尙ホ許可スルニ當リマシテハ、詮衡方針ニ於テ慎重ヲ期シタイト思ツテ居

リマス、ソレカラ「命令ヲ以テ定ムル官廳」

ト云フノニハ大藏省モ入ツテ居リマス、次官等デ間接的デハアリマスケレドモ、國稅事務ニモ從事シタト云フ解釋ガ付キ得ル限り、稅務代理士タル資格ハアリ得ル譯デアリマスカラ、サウ云フ要職ニアラレタ方

ガ稅務代理士ノ許可ヲ受ケラレルト云フコトハ、吾々トシテモ希望シテ居ル所デアリマス

次ニ特殊ノ關係アル會社カラ稅務ノ相談ヲ受ケタト云フ場合ニ、稅務代理業ニ當ルカドウカト云フノデアリマスガ、自己ノ關係シテ居リマスル特殊ノ會社ノ稅務ニ關シテ相談ヲ受ケルト云フコトハ、稅務代理業ヲ營ム者ト云フ解釋ニハ入り兼ネルト思ツテ居ルノデアリマス、稅務代理士法案ニアリマスル通り、「所得稅、法人稅、營業稅」ノ他命令ヲ以て定ムル租稅ニ關シ他人ノ委託又ハ審査ニ請求、訴願ノ提起其ノ他ノ事項ニ付代理ヲ爲シ若ハ相談ニ應ズルヲ業ト云フノハ、例ヘバ事務所ヲ置キマシテ、不特定多數ノ人ノ委嘱ヲ受ケ得ルヤウナ狀態ニ於テ仕事ヲスル者、斯ウ云フ風ニ解釋シタラ宜シトイ思ツテ居リマス、又隨テ報酬ヲ得ルト云フコトガ當然伴ツテ參ルノデハ、謹シ御意見ヲ御伺ヒシマシテ、今後ノ顧問ト云フヤウナ地位ニアリマスル者ガ、

以上ニ必要ダト思フノデアリマス、何レニ致シマシテモ、稅務官吏ノ素質ノ向上ト云フコトハ、稅務代理士制度ガ出来マシタ

申上ゲタ積リデアツタノデアリマス、何レニ致シマシテモ、稅務官吏ノ素質ノ向上ト云フコトハ、稅務代理士制度ガ出来マシタ

ニ付テ簡單ナコトヲニツバカリ伺ツテ置キ
アリマシテ若シ重複致シテ居リマシタラ、
誰々ニ答辯シタ御答へ下サレバソレデ宜
シイノデアリマス、第一ハ、税務代理士ハ
第一條ニ依リマシテ、ナズベキ行爲ガ定メ
ラレテ居ルノデアリマスガ、其ノ中デ書類
ヲ單ニ作成スルト云フコトガ、恰モ司法書
士即チ代書人ガ書類ヲ作成スルト云フヤ
ウニ解釋ズベキデアリマセウカ、實際ニ於
テハ所得税或ハ法人税等ノ申告ニ付テ、ド
ウシテモ納税者ノ會計或ハ法人ノ會計ニ立
入ツテ計算ヲシナケレバナラヌコトガアル
ノデアリマス、添付書類ニモノレラ要求シ
テ居ル箇條ガアルノデアリマス、ソレデア
リマスカラ、若シサウ云フ計算ニ屬スルコ
トヲ致シマスレバ、勢ヒ計理士法ノ第一條
ト抵觸スルト云フコトニ相成ルノデアリマ
スガ、其ノ點ヲ本法實施ニ對スル解釋トシ
テ此ノ席上ニ於テ明確ニ致シテ置ク方ガ都
合ガ宜クハナイカト考ヘマス、其ノ點ヲ一
ツ御答辯フ願ヒタイト思ヒマス

ヤウナモノヲ作ルコトニナツテ參リマス、ソ
ニデ税務代理士ノ制度ヲ設ケマシタコトガ
計理士ノ業務ト重複スルノデハナイカト云
フ御疑問ガ起ツテ參ルノデアラウト思フノ
ニアリマスガ、税務代理士ノ業務ハ税務ニ
關シマス特定ノ手續ニ限定セラレテ居ルノ
デアリマス、計理士ノ業務ハ一般ニ會計ニ
關スル検査、調査、鑑定、計算、證明、整
理又ハ立案ヲナスコトニナツテ居リマスノ
デ、一部分重複シテ居ル部分ハゴザイマス
ケレドモ、之ニ依ツテ計理士ノ業務ヲ制限
スルモノデハナイノデアリマス、唯計理士
ノ業務トシテ會計ニ關スル検査、調査、鑑
定、計算、證明、整理又ハ立案ヲナシテ居
ルダケデアレバ、ソレデ税務代理士ノ許可
ハ要ラナイノデアリマスガ、其ノ作成致シ
マシタ書類ニ基イテ税務ニ關スル申告書ヲ
作成スルト云フコトニナリマシタ場合ニ於
キマシテハ、税務代理士ノ業務ヲ併セ營ム
ト云フコトニナツテ參リマスノデ、其ノ範
圍内ニ於テハ今回ノ法律ニ依ツテ制限ヲ受
ケマスノデ、税務代理士ノ許可ヲ得ルコト
ヲ要スル、左様ニ相成リマス

○松隈政府委員 稅務代理士ガ計算事務ヲ
行ヒマスノハ、實際ニハ稅務ニ關スル特定
ノ手續ヲナシマス前提トシテ致ス場合ノミ
ニ限ラレテ居ルノ實情デアリマシテ、一般
ニ會計ニ關スル検査、調査、鑑定、計算、
證明、整理又ハ立案ヲナスト云フコトハ本
法ノ範圍外デアリマス、所デ計理士ニ關シ
マ斯特權トシテ今計理士法ニ於テ認メテ居
リマスノハ、御承知ノ通り計理士ナル稱號
ヲ用ヒテ検査、調査、鑑定、計算、證明、
整理ヲスルコトガ認メラレテアルノデ、計
理士ナル稱號ヲ用ヒナケレバサウ云フコト
ヲシテモ違反デハナイト云フ解釋ニ相成ツ
テ居ルヤウデアリマス、故ニ今回稅務代理
士法ニ依ツテ認メラレマス業務ノ範圍ハ、
稅務ニ關スルコトニ特定シテアリマスシ、
ソレカラ稅務代理士ガ業務ニ關聯シテ、會
計ニ關スル事務ヲ致シマシテモ、ソレハ計
理士ナル稱號ヲ用ヒテヤルト云フ意味ハ入
ツテ居リマセヌカラ、計理士法トハ抵觸致
サナイカト思ツテ居リマス、ソレカラ稅務
ニ關スル相談ト云フモノハ、考ヘ方ニ依リ
マシテハ少シク廣クナルノデアリマスガ、
大體本來ノ業務ヲ執行致スニ付テ或ル程度
ノ話シ合ガアツタト云フコトガアリマシテ
モ、ソレダケ取上ゲテ稅務ノ相談ヲシタト
云フヤウナ見方ハ致サナイ、附隨的ニ相談
ガアルト云フコトハアリ得ルコトデアリマ
スカラ、サウ云フモノヲ稅務ノ相談トシテ、
特ニ稅務代理士ノ許可ガナケレバ出來ナイ
ト云フ風ニ解釋ハ致サナイ積リデアリマス
○石坂(豐)委員 能ク判明致シマシタ、次
ニ先程駒井君カラ御尋ネニナツテ居リマシ

タ税務官吏ノ優遇ノコトニ關聯致シマジテ、ナツテ居リマセウガ、詰リ地方ニ於ケル官廳ト本廳トノ間ニ交流人事ヲ行ツテ、優秀ナモノヲ拔擢スル、又優秀ナ人ヲ地方ニ送ツテ指導ノ任ニ當ラシメル、サウ云フコトハ從來行ハレテ居ツタヤウニ考ヘテ居リマスガ、此ノ頃其ノ點ニ付テ特ニ御實行ニナツテ居リマスデセウカ、此ノ事ハ單ニ昇給トカ恩賞ト云フヨリヘ、寧ロサウ云フ風ニ下級官廳ヨリ上級官廳ニ引上ゲルト云フコトニ依ツテ、一人ヲ賞シテ他ノモノガ奮起シテ行クコトニ相成ルノデアリマシテ、税務官吏ノ素質ヲ向上セシメラレル點ニ於テモ餘程有益デアルト考ヘマスガ、局長ノ御考ヘハ如何デアリマセウカ

○松隈政府委員 税務ニ於キマシテ中央ト地方ノ人事ノ交流ヲ致シマシテ、地方ニ於ケル税務官吏ノ素質ノ優秀ナル者ヲ中央ニ拔擢スルコトニ依リマシテ、一方ニ於テハ優遇ヲ圖リ、一方ニ於テハ向上心ヲ刺戟スルコトノ必要デアリマスルコトハ仰セノ通りデアリマス、從來モ實行致シテ居リマス、從來本省ニ於テ地方ノ税務官吏中比較的優秀ト認メラレマスル者ヲ集メテ講習ヲ致シ、其ノ講習成績ノ優良ナル者ハ將來ニ於テ本省ノ官吏トシテ推薦スル、斯ウ云フコトニ相成ツテ居リマスルノデ、是ガ税務官吏ノ一つノ登龍門ノヤウニモ相成ツテ居リマス、全ク仰セノ通り中央、地方ノ交流人事ト云フコトハ、一面カラ云ヘバ中央ノ事情ヲ地方ニ反映シ、又地方ノ事情ヲ中央ニ反映サセル上ニ於テモ必要ナコトデアリマスノデ、今後モ出來ル限リサウ云フ方針デ

○由谷委員長　此ノ際昨日委員長カラ質問
家國民貯蓄獎勵局次長カラ御説明ガアルサ
ウデアリマスカラ、發言ヲ許シマス
○氏家政府委員　昨日國民所得ノ内容ニ關シマシテ、氏
題ニナツタノデ、アリマスガ、其ノ際御質問
ニ應ジマシテソレノ御答へ致シマシタノ
デ、稍、連絡ガナイヤウナ御答ヘヲ致シマシ
タ爲ニ御分リニクイ點モオアリニナツタラ
ウト思ヒマスノデ、重複ノ嫌ヒハアリマス
ルケレドモ、茲ニ纏メテ今一應御説明申
上ガタイト思ヒマス、先づ算定ノ方法デア
リマスガ、是ハ方法ハ色々アリマシテ、ド
レガ最モ適當デアルカト云フコトハ中々取
捨選擇ニ困ル難シイ問題ナノデアリマス、
況シヤ將來ノモノニ付キマシテハ、國民經
濟ノ各般ノ條件ヲ豫測スルノ必要ガアリマ
スルノデ、色々研究ハ致シテ居リマスケレ
ドモ、數字的ニ詳細ニ御説明申上ゲ、又是
ガ一番良い方法ダト云フコトヲ確定的ニ申
上ゲルコトガママ出來ナイノヲ甚ダ遺憾ト
シテ居ル次第アリマス、從來國民所得ニ
付キマシテハ、議會ニ於テモ問題ニナツタ
コトガアルノデアリマス、併シ其ノ方法ハ
大體人的ノ計算方法ト申シマシテ、各個人
ナリ法人ナリノ所得ヲ集計致シマシテ、ソ
レカラ相互ノ重複分ヲ控除スルト云フキウ
ナ方法ニ依ツタモノヲ發表シタ年モアルト
云フヤウナコトデアツタラウト思フノデア
リマスガ、是等ノコトハ主トシテ稅制ノ上
デ問題ニナリマシタノデ、其ノ詳細ハ主稅
局長ノ方カラ御話申上ゲル方ガ適當デアル
ト思フノデアリマス、私共最近調査シテ居
リマスルノハ、丁度昨年財政金融基本方策
要綱ガ閣議ノ決定ニナリマシテ、其ノ中デ

國家資力ト云フ問題ヲ取上げ、之ヲ相當重視致シテ居リマシテ、各般ノ經濟政策、財政金融政策立案案ノ基礎トシテ、國家資力ヲ出來ルダケ正確ニ測定スル必要ガアル、斯ニ備ヘル爲ニ、昨年アタリカラ急ニ各方面ノ學者其ノ他ノ意見ヲ徵シ、又其ノ援助モ受ケマシテ、只今大藏省ニ於テ其ノ調査ヲ進行致シテ居ルノデアリマス、勿論マダ其ノ調査ガ完成致シテ居リマセヌ、今此處デ申上ゲルノハ尙早ノ感ガアルノデアリマスガ、問題ニナリマシタノデ、ホンノ大體ノ所ヲ申上げマス次第デアリマス、其ノ方法ハ所謂物的計算方法ト云フモノヲ取ルコトニ致シマシテ、當該年度ニ於キマシテ新ニ生産サレマシタ物資ノ生産額カラ原料費デアルトカ、光熱費デアルトカ、動力費デアルトカ云フヤウナ必要經費ニ相當スルモノヲ控除シマシタ額、是ガ一ツ、加工若シクハ輸送等ニ依ツテ增加シタ物資ノ價格、是ガ又一ツ、ソレニ對價ノ支拂ハレル勤勞ノ價格、是ガ三ツ、ソレニ尙ホ對外收支ノ差額ヲ調整シマシテ、國民所得ヲ算出シヨウ、斯ウ云フ方法ヲ執ツテ居ルノデアリマス、兩者ヲ特ニ區別スルコトナク、一括シテ國民所得中ニ算入シテ居ルヤウナ次第デアリマス、昭和十七年度ノ國民所得ガ四百五十億程度デアル、斯ウ申上げマンシタノハ極メテ大體ノ輪廓ヲ御示シシタニ過ギナイノデマシテ若干修正ヲ加ヘルコトガアリ得ルト思フノデアリマス、尙ホ四百五十億ノ所得

ハドレ程デアルカ、工業トシテハドレ程デアルカト云フヤウナ所得ノ數額ノ内譯ハ、色々事情ガアリマシテ、此ノ際茲デ申上ゲルコトガ出来兼ネルヤウナ次第デアリマス、其ノ四百五十億圓ノ中國民ノ消費資金、之ヲ大體百五十億圓程度ト大藏大臣ガ申上ゲタヤウデアリマス、總國民所得ヲ大別シマスルト、之ヲ財政資金トシテ使ハレルモノ、產業資金トシテ使ハレルモノ、更ニ國民消費資金トシテ使ハレルモノ、斯ウ云フ風ニ分ケ得ルト思フノデアリマスガ、其ノ四百五十億圓ノ中、國民消費資金トシテ使用セラル部分ガ百五十億圓程度、斯ウ云フ風ニ申上ゲテアルノデゴザイマス、租稅及ビ國民貯蓄ノ勤員ニ依リマシテ、財政資金トシテ消費シ得ル部分、是ガ大體二百四十億圓、ソレカラ產業資金ノ方面デ生產用ニ使用シ得ル部分、是ガ約六十億圓、其ノ二ツヲ四百五十億圓カラ控除シタ殘額、是ガ國民消費ニ充當シ得ルモノ、斯ウ云フコトニナルノデアリマシテ、觀念上ハ其ノ國民消費ト申シマス中ニハ個人ガ其ノ負擔ニ於テ消費スルモノノミナラズ、法人ガ其ノ負擔ニ於テ消費ヲスルモノモ含ム、斯ウ云フコトニ相成ルノデアリマス、併シ其ノ兩者ガドレ程ノ割合ニナツテ居ルカト云フコトハ、今日ノ調査ノ進行ノ程度ニ於テハ、未ダ之ヲハツキリ申上ゲルコトガ出来マセヌガ、大體ニ於キマシテ法人ガ其ノ負擔ニ於テ消費シ得ル部分ハ非常ニ少イ額デアラウ、斯ウ云フコトハ想像シ得ルノデゴザイマス、此人國民所得ノ問題ハ、能ク通貨ノ流通ノ問題ト混同セラル場合ガアルノデアリマスガ、是ハ私共トシテハ、關聯ハアリマス

ケレドモ、別ノ問題デアリマス、國民所得四百五十億圓ト云ヒ、國民ノ消費百五十億圓トフ雲ニ云ヒマシテモ、是ハ先程申上ゲマシタヤウニニ極メテ大雜把ナ數字デ、謂ハバ昭和十七年度末前一箇年ニ國民所得ノ累計ガ幾許ニ達スルカ、且ツ其ノ分配トシテ國民ノ消費累計ガ幾許ニ達スルカ、斯ウ云フ靜態的ナ豫測、斷面的ノ豫測デアリマシテ、是ト國民經濟ニ於ケル通貨ノ動的ノ循環ハ之ヲ區別シテ者ハテ居ル次第デアリマス、昨日下ナタカノ御話ニ、百五十億圓ヲ生活ニ消費シテモ、其ノ金ハ何處ニモ行カナイデ、又日本銀行ニ戻ルダラウ、隨て是ハ又貯蓄ニモナルダラウ、斯ウ云フ御話ガアツタノデアリマス、成程百五十億圓ト云フ金ハ消費シテモ、金其ノモノハ日本ノ國カラ何處ニモ出で行ク譯デハアリマセヌ、併シ其ノ金ノ消費ニ依ツテ、百五十億圓ニ相當スル所ノ物資——ト申シマシテモ、先程來申上ゲテ居リマス物資ト云フ言葉ノ中ニハ、所謂物資モ、勞力モ、色々ナ「サーヴィス」モ含マレテ居ルノデアリマスガ、其ノ百五十億圓ノ物資ト云フモノハ其ノ效用ヲ大體ニ於テ失ツテシマツテ居ル、斯ウ云フ風ニ考ヘルノデアリマシテ、逆ニ例ヘバ、公債ヲ日本ニ引受ケサセ、日銀ガ兌換券ヲ増發スル、十億圓ノ兌換券ヲ増發スルト云フコトハ、今申上ゲテ居ル所ノ物資ガ十億圓値エルト考ヘ方トナルノデアリマス、國民經濟ノ活動ハ、貨幣經濟ノ今日必ズ通貨ノ循環ヲ伴

ソレガ然ルベキ態様ニ依リマシテソレト
配分セラレル爲ニハ、必ズ之ニ相應スル通
貨ノ循環ヲ伴フ、是ハ勿論ノコトデアル、
通貨ハ其ノ性質トシマシテ或爾回轉率ヲ以
チマシテ絶エズ回轉シテ居ルノデアリマス、
通貨ノ數量竝ニ其ノ回轉率ト云フノハ、靜
態的デアル所ノ國民所得ノ計數竝ニ其ノ配
分トノ間ニ、必然的ニ或ル種ノ關聯性ハア
ルト思フノデアリマス、即チ生産量が増加
スル、又消費量が増加スルト云フ爲ニハ、
ソレニ伴ツテ通貨量モ増加シナケレバナラ
ス、斯ウ云フヤウナ關聯ハアルト思フノデ
アリマス、併シ此ノ兩者ハ別箇ノ觀點カラ
考察スルヲ要スルノデゴザイマス、即チ動
態的ニ申上ゲマスルト、國民ガ一旦消費シ
タ通貨デアツテモ、是ハ又循環ノ過程ニ於
テ更ニ消費或ハ貯蓄ノ方ニ向クラレル次第
デアリマスケレドモ、此ノ國家資金ニ關ス
ル計畫ト致シマシテハ、之ヲ一箇年間ノ累
積シタ所ノ計數トシテ靜態的ニ考察スルト
云フコトガ必要ニナツテ來ルノデゴザイマ
ス、斯ウ云フヤウナコトニ相成ル次第ナノデゴ
ザイマス、昨日來申上ゲタコトヲ纏メテ御
話申上ゲマスト以上ノヤウナコトニ相成ル
ノデゴザイマス、尙ホ先程申上ゲマシタヤ
ウニ、從來發表致シテ居リマシタ所ノ國民
所得ニ付キマシテハ、主税局長ノ方カラ申
上ガルコトト致シマス

ノ國民所得ヲ二百五十五億圓程ニ發表シタ
ノデゴザイマス、是ハ昭和十年ノ國民所得ノ
調査ガ内閣統計局デ出來テ居リマシタノ
デ、ソレヲ基礎トシマシテ以後ノ課税所得
ト云フ國民所得ニ付キマシテハ、内閣統計
ノ増加割合ニ依ツテ推算シテ參ツタノデゴ
ザイマス、尤モ昭和十四年ノ二百五十五億
感ジハスル、併シ何程デアルカト云フコト
局ノ意見モ求メラレタノデアリマスガ、内
閣統計局ニ於テハ、少シ少ナ過ギルト云フ
ハハツキリ明言出來ナイ、二百五十五億ヲ
下ルヤウナコトハアルマイ、斯ウ云フコト
デアリマシタ、其ノ當時推算ノ基礎ト致シ
マシタノハ豫算デアリマシテ、實績ニ依ツ
テソレヲ訂正シテ見マスルト、實ハ昭和十
四年ノ國民所得ハ二百八十三億圓程度ト見
ルノガ宜カツタカト思フノデゴザイマス、
昭和十五年度ノ國民所得ト致シマシテハ、課
稅所得ノ増加割合ニ依ツテ十四年ノ二百八
十三億ヲ基礎トシテ計算シマスルト、三百
二十億圓程度ニ相成ルノデアリマシテ、十
四年ニ比べテハ一割三分程度ノ増加ニ相成
ツテ居リマス、昭和十六年度ノ國民所得ノ
推算ハ、未ダ的確ナル資料ヲ得難イノデア
リマスルカラ、推算スル外ナインデアリマ
スルガ、此ノ場合ニ於キマシテ、從來國民
所得ノ増加シマシタ割合カラ想定シマシタ
比率ヲ掛けテ假ニ出シテ見ルコトニ致シタ
ノデアリマス、其ノ増加割合ハ、先程モ申
上ゲマシタヤウニ、昭和十五年度ハ十四年
度ニ比シテ一三%位増シテ居リマス、其ノ
モウ一ツ前ノ十四年ハ二百八十三億圓ト致

シテハ、政府資金ノ撒布ノ多イコト、及び
其ノ從前ノ増加率等ヲ勘案シマシテ、餘リ
多クモ見積ラズ、又餘リ少ナ目ニモ致サナ
イト云フヤウナ所カラ、一割五分程度ト抑
ヘマシテ、十五年ノ三百二十億圓ニ對シテ
一割五分増シテ計算シマスト、昭和十六年
ハ三百六十八億圓ト相成リマス、昭和十七
年ノ見込ミニ對シテモ同ジク前年ニ比シテ
一割五分程度増スモノトシテ計算シマス
ト、四百二十四億圓トナル譯デアリマス、
併シ是ハ一種ノ見込ミデアリマスルノデ、
左様御諒承願ヒタイノデアリマシテ、大臣
大臣モ他ノ機會ニ於キマシテ、事務當局ハ
假ニ見込ミヲ加ヘテ、四百二十億圓程度ノ
數字ヲ言ツテ居ル、自分ハ達觀モ加ヘテ四
百五十億圓程度デハナイカト思フ、斯ウ云
フ風ニ仰シヤツテ居ル次第アリマス

○由谷委員長 丁度多少ノ修正ガ四百二十一億圓ト四百五十億圓トノ間ニ相當ノ開キガアルカラ先ツ一致スル結果ト私ハ考ヘタノデス、私ノ意見ハドウデモ宜イノデスガ、ソレデ今直チニ彼此レノ議論ハ差控ヘマスガ、此ノ國民ノ立場カラ痛切ニ考ヘラレルコトバ、極メテ大難把ナ常識的ナ判断ニシカ過ギマセヌガ、兎ニ角四百五十億圓ノ國民所得グ、此ノ内容ハ法人ガ幾ラ個人ガ幾ラカ分ラスガ、併シ大體生活消費ノ方面ニ於テハ、大部分個人ニ行クモノダト云フ御説明ヲ基礎ニシテ考ヘマスト、四百五十億圓ノ内、三百億圓ガ國家資金ニ吸收サレル、百五十億圓ガ生活資金ニ残ル、昨日谷口次官ノ説明デ此ノ國民所得ノ範圍ハハツキリシタ、詰リ内外地ヲ通ジテノ所得ト云フコトデアリマシタカラ、具體的ニ言フト一億人、一億人ガ百五十億圓デ暮シテ行クト云フノデスカラ、一年一人ノ生活費ガ平均シテ百五十五圓、サウシマスト、今日ノ物價其ノ他ノ關係デ一人一箇年ノ生活費ガ百五十圓デヤツテ行ケルモノカドウカト云フ其ノ問題ガ、何時デモ賠金運動ヲシマシテモ、色ンナ財政論ノ話ヲシテモ、國民自體ニビント來ル問題トシテノ焦點ニナル譯デス、是ハ良いモ惡イモナナイ、サウナツテシマヘバ國家要請デアルカラ仕様ガナイモノダガ、政府ト思ヒマスガ、昨日今日ノ御説明ヲ取纏メタ結論トシテ、結局國民個人ノ立場デ言ヘ

ヒマシテ、隨テ一定ノ所得ガ實現セラレ、ソレガ然ルベキ様ニ依リマシテソレド、配分セラレル爲ニハ、必ズ之ニ相應スル通貨ノ循環ヲ伴フ、是ハ勿論ノコトデアル、通貨ハ其ノ性質トシマシテ或リ回轉率ヲ以チマシテ絶エズ回轉シテ居ルノデアリマス、分トノ間ニ、必然的ニ或ル種ノ關聯性ハアルト思フノデアリマス、即チ生産量ガ増加スル、又消費量ガ増加スルト云フ爲ニハ、ソレニ伴ツテ通貨量モ増加シナケレバナラス、斯ウ云フヤウナ關聯ハアルト思フノデアリマス、併シ此ノ兩者ハ別箇ノ觀點カラ考察スルヲ要スルノデゴザイマス、即チ動態的ニ申上ゲマスルト、國民ガ一旦消費シタ通貨デアツテモ、是ハ又循環ノ過程ニ於テ更ニ消費或ハ貯蓄ノ方ニ向ケラレル次第デアリマスケレドモ、此ノ國家資金ニ關スル計畫ト致シマシテハ、之ヲ一箇年間ノ累積シタ所ノ計數トシテ靜態的ニ考察スル云フコトガ必要ニナツテ來ルノデゴザイマス、斯ウ云フ見地カラ致シマスレバ、例ヘバ國民所得四百五十億圓、財政及ビ産業資金ガ三百億圓、國民消費資金ガ百五十億圓、話申上ゲマスト以上ノヤウナコトニ相成ルノデゴザイマス、尙ホ先程申上ゲマシタヤウニ、從來發表致シテ居リマシタ所ノ國民所得ニ付キマシテハ、主税局長ノ方カラ申上ガルコト致シマス

○松隈政府委員 近年ニ於キマシテ國民所得ガ何程デアルカト云フコトが問題ニナリ

マシタノハ、昭和十五年ノ稅制改正當時ニ

ト云フ國民所得ニ付キマシテハ、内閣統計局ノ意見モ求メラレタノデアリマスガ、内閣統計局ニ於テハ、少シ少ナ過ギルト云フ感ジハスル、併シ何程デアルカト云フコトハハツキリ明言出來ナイ、二百五十五億ヲ下ルヤウナコトハアルマイ、斯ウ云フコトデアリマシタ、其ノ當時推算ノ基礎ト致シマシタノハ豫算デアリマシテ、實績ニ依ツテソレヲ訂正シテ見マスルト、實ハ昭和十四年ノ國民所得ハ二百八十三億圓程度ト見ルノガ宜カツタコト思フノデゴザイマス、昭和十五年度ノ國民所得ト致シマシテハ、課稅所得ノ增加割合ニ依ツテ十四年ノ二百八十三億ヲ基礎トシテ計算シマスルト、三百二十億圓程度ニ相成ルノデアリマシテ、十四年ニ比べテハ一割三分程度ノ增加ニ相成ツテ居リマス、昭和十六年度ノ國民所得ノ推算ハ、未ダ的確ナル資料ヲ得難イノデアリマスルカラ、推算スル外ナインデアリマスルガ、此ノ場合ニ於キマシテ、從來國民所得ノ增加シマシタ割合カラ想定シマシタ比率ヲ掛ケテ假ニ出シシテ見ルコトニ致シタノデアリマス、其ノ增加割合ハ、先程モ申上ゲマシタヤウニ、昭和十五年度ハ十四年度ニ比シテ一三%位増シテ居リマス、其ノモウ一つ前ノ十四年ハ二百八十三億圓ト致シマシテ、昭和十三年ノ二百三十二億圓ニ比べマスト、約二三%位増シテ居リマス、

シテハ、政府資金ノ撒布ノ多イコト、及び
其ノ從前ノ増加率等ヲ勘案シマシテ、餘リ
多クモ見積ラズ、又餘リ少ナ目ニモ致サナ
イト云フヤウナ所カラ、一割五分程度ト抑
ヘマシテ、十五年ノ三百二十億圓ニ對シテ
一割五分増シテ計算シマスト、昭和十六年
ハ三百六十八億圓ト相成リマス、昭和十七
年ノ見込ミニ對シテモ同ジク前年ニ比シテ
一割五分程度増スモノトシテ計算シマス
ト、四百二十四億圓トナル譯デアリマス、
併シ是ハ一種ノ見込ミデアリマスルノデ、
左様御諒承願ヒタイノデアリマシテ、大臣
大臣モ他ノ機會ニ於キマシテ、事務當局ハ
假ニ見込ミヲ加ヘテ、四百二十億圓程度ノ
數字ヲ言ツテ居ル、自分ハ達觀モ加ヘテ四
百五十億圓程度デハナイカト思フ、斯ウ云
フ風ニ仰シヤツテ居ル次第アリマス

○由谷委員長 一寸承リマスガ、只今ノ初
メノ氏家政府委員ノ御説明ハ大變面倒ナ學
問的ナモノデアツタノデスガ、大體ハ物的
計算方法ニ依ツタト云フ風ニ承リマシタ
シ、アトノ松隈主税局長ノ御説明ハ所謂人
的計算方法ト云ツタモノニナルト考ヘテ宜
イデセウカ

○松隈政府委員 左様デゴザイマス

○由谷委員長 サウシマスト、結論的ニ言
フド、人的計算方法ニ依ツテモ、物的計算
方法ニ依ツテモ、大體十七年度ノ國民所得
ハ四百二十億乃至四百五十億、稍似タ數字
ガ出ルモノト云フコトニナルノデスガ、サ
イ考ヘテ宜イデセウカ

○由谷委員長 丁度多少ノ修正ガ四百二十一億圓ト四百五十億圓トノ間ニ相當ノ開キガアルカラ先ツ一致スル結果ト私ハ考ヘタノデス、私ノ意見ハドウデモ宜イノデスガ、ソレデ今直チニ彼此レノ議論ハ差控ヘマスガ、此ノ國民ノ立場カラ痛切ニ考ヘラレルコトバ、極メテ大難把ナ常識的ナ判断ニシカ過ギマセヌガ、兎ニ角四百五十億圓ノ國民所得グ、此ノ内容ハ法人ガ幾ラ個人ガ幾ラカ分ラスガ、併シ大體生活消費ノ方面ニ於テハ、大部分個人ニ行クモノダト云フ御説明ヲ基礎ニシテ考ヘマスト、四百五十億圓ノ内、三百億圓ガ國家資金ニ吸收サレル、百五十億圓ガ生活資金ニ残ル、昨日谷口次官ノ説明デ此ノ國民所得ノ範圍ハハツキリシタ、詰リ内外地ヲ通ジテノ所得ト云フコトデアリマシタカラ、具體的ニ言フト一億人、一億人ガ百五十億圓デ暮シテ行クト云フノデスカラ、一年一人ノ生活費ガ平均シテ百五十五圓、サウシマスト、今日ノ物價其ノ他ノ關係デ一人一箇年ノ生活費ガ百五十圓デヤツテ行ケルモノカドウカト云フ其ノ問題ガ、何時デモ賄金運動ヲシマシテモ、色ンナ財政論ノ話ヲシテモ、國民自體ニビント來ル問題トシテノ焦點ニナル譯デス、是ハ良いモ惡イモナナイ、サウナツテシマヘバ國家要請デアルカラ仕様ガナイモノダガ、政府ト思ヒマスガ、昨日今日ノ御説明ヲ取纏メタ結論トシテ、結局國民個人ノ立場デ言ヘ

マス、但シマダ一人當リ百五十圓ト云フ程度、是ガ大體東京ノ者ガ平均ニナリマス爲ニハ、東京ノ人デアレバドノ程度ノ生活ニナラナケレバナラナイカ、農村ノ人デアレバドノ程度ノ生活ニナラナケレバナラナイカト云フヤウナ所マデカ、町村ノ人デアレバドノ程度ノ生活ニナラナケレバナラナイカト云フヤウナ所マデ分ツテ居リマセヌノデ、ハツキリシタコトヲ申上ガルコトガ出來ナイノデアリマスガ、兎ニ角今マデヤツテ來タヤウナ生活ヨリハ餘程切詰メタモノデナケレバナラナイト云フコトハ間違ヒナイモノト思フノデアリマス、隨ヒマシテ現在厚生省、或ハ商工省、或ハ大藏省其ノ他關係ノ所デソレゝ＼戦時生活ノ基準ト云フヤウナモノヲ調査致シテ居ルヤウデゴザイマスガ、何レ是ハ政府トシマシテモ纏マツタ一ツノ結論ヲ得マシテ、之ヲ今後ノ貯蓄獎勵ノ上ニ大イニ活用シテ行カナケレバナラヌグラウト思フノデアリマス、併シ實際問題ト致シマシテ或ル基準ガ得ラレタト致シマシテ、之ヲドウ云フ風ニ貯蓄獎勵ノ上ニ活用シテ行クカ、國民生活指導ノ上ニ利用シテ行クカト云フコトハ非常ニムツカシイ問題ナノデゴザイマスケレドモ、ヤラナケレバナラヌト云フコトダケハ、確カデゴザイマスカラ目下ソレゝ＼ノ方面ニ於テ、調査ヲ急イデ居ルヤウナ次第デゴザイマス

○由谷委員長 ゾレデハ本日ハ此ノ程度散會致シマス、次會ハ明後日午後一時カラ開會致シマス、尙ホ明後日ハ午後一時ニ大臣藏大臣ガ出席スルサウデスカラ、川俣君、深澤君、石坂君、此ノ三君ノ大臣ノ質問ガ留保サレテ居リマスノデ、此ノ三君ハ

一ツ早々御出席ヲ願ヒマス

午後四時十分散會

昭和十七年二月八日印刷

昭和十七年二月九日發行

衆議院事務局

印刷者 内閣印刷局